



週刊 YEAR BOOK

1901
明治34年

日録20世紀

10/13

平成10年10月13日発行
(毎週1回火曜日発行)
第2巻第38号 通巻81号
平成10年7月31日第三種郵便物認可

¥560
講談社

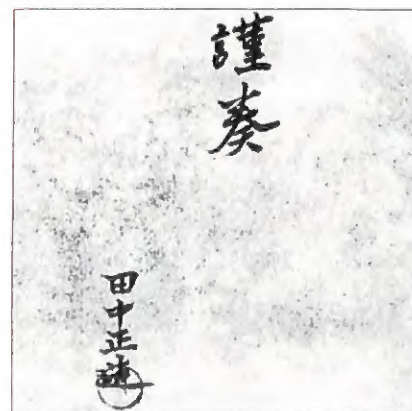


与謝野晶子『みだれ髪』にこめた“愛と情熱”
「ヒーロー」か「天狗」か! 明治のタバコ大戦争
レントゲンなど6人に第1回ノーベル賞授与!

田中正造、天皇に直訴!



▲直訴当時の田中正造。衆議院議員として足尾鉍毒事件を追及したが、議会における闘いの不毛を見きわめ、直訴を決行する。



▲天皇への直訴状の上書き。

「人民にかかる害悪を与えているのが農商務大臣には見えないのか！」 美濃紙六枚に綴られた足尾鉍毒汚染の実態 田中正造決起、天皇に直訴状！

明治後期、栃木県・足尾銅山から流出した有毒廃棄物が、渡良瀬川流域を汚染した。川では魚が死に絶え、田畑は枯れ野と化し、鉍毒病は漁師や農民のみならず老人や幼児も冒したのである。明治三四年二月一〇日の、田中正造による天皇直訴事件は、鉍毒の存在を認めようという国家への最後の抗議行動だった。

幸徳秋水が手助け
決死の直訴は失敗

「お願いがございますッ！」

明治三四年二月一〇日午前十一時すぎ、第一六回議会の開院式からの帰路、桜田門近くの衆議院議長官舎脇を通る明治天皇の馬車に駆け寄り老人がいた。



▲明治34年、直訴直前の田中正造(前列左から二人目)と、鉍毒被害の調査に訪れた人々。佐野町(現・佐野市)駅前にて。



▲水害に見舞われた足利郡の農家。渡良瀬川の氾濫で、沿岸の農家はたびたび被害を受けた。これは、足尾銅山の燃料や杭材用に山林を乱伐したのが原因だった。



▲田中正造の秘書だった左部(さとり)彦次郎。東京専門学校在学中に足尾鉍毒問題に触れ、被害地に移住、反対運動の理論的指導者として活躍した。

◎表紙 生涯を通して足尾鉍毒問題に取り組んだ田中正造。明治37年7月、日露戦争の最中、谷中村に移り住んだ。
佐野市郷土博物館提供

明治からの公害略年表

明治時代の公害は、その多くが鉱山と関連する問題だった。欧米列強のような資本主義国家をめざす日本にとって、江戸時代から幕府や諸藩の後押しで進められてきた鉱山業は、とりあえず、とっかかりになる産業だったからである。それも、明治中期になると、セメント業や化学工業が発達し始め、工場による公害が問題になり始める。

明治7年 福島県の半田銀山山麓で、鉱山の排水による稲苗被害が発生。

明治8年 愛媛県の千原鉱山で鉱毒問題が発生。

明治13年 愛媛県で、絵具の緑青色団子で中毒事件が発生（被害者は約200人）。

明治40年 別子銅山の四阪島製錬所から亜硫酸ガス被害が発生。

大正5年 鈴木商店（現・味の素）の生産増とともに、塩酸ガス流出による農作物被害が相次ぐ。

大正15年 北海道の浅野セメント工場が、セメント粉塵で農業被害を引き起こす。

昭和4年 川崎市の海岸で三井物産の重油船が重油流出。浅草海苔が全滅する。

昭和12年 群馬県の日本亜鉛電解工場で、操業第1日より有害ガス発生。

昭和17年 熊本県水俣地区で、すでに水俣病と疑われる患者が発生。

「人民に、かかる害悪を与えているのが農商務大臣には見えないのか！」
美濃紙6枚に綴られた足尾銅毒汚染の実態
田中正造決起、天皇に直訴状！

足尾銅山が急発展をとげたのは、明治一〇年に貿易商の古河市兵衛（当時・四五歳）が四万八〇〇〇円（たとえば、当時、うな重が一杯二〇銭だった）で買収してからである。正造の「不倶戴天」の敵となる古河は、銅山に近代設備を導入して産出量を増加させた。一八九〇年代には、足尾産の銅が日本の銅産出量の四八割を占めるまでになっていた。

「富国強兵政策を選んだ明治政府にとって、電気通信材料としての銅は最先端の軍需物資であるとともに、生糸に次いで外貨を稼げる輸出品でした。積極的な経営姿勢で銅の生産第一位になった足尾銅山は、生産にともなう廃棄物、ガスの渡良瀬川への排出にはまったく注意を払わず、政府もこれを放置したのです」

と、宇井純・沖縄大学教授は語る。こうして、当時、栃木県選出の立憲改進党代議士・田中正造が立ちあがったのだ。「人民に、かかる害悪を与えているのが、農商務大臣には見えないのか！」

正造は、明治二四年一二月の第二帝國議会で陸奥宗光農商務大臣（当時・四七歳）を攻撃。それを皮切りに、その後半生を鉱毒公害と闘うことになる。ちなみに、「原因確実ならず」と答弁を続けた陸奥大臣は、その次男・潤吉を古河の養子にした間柄だった。

正造は、国会で政府を非難しては足尾問題に人々の注目を向けさせたが、鉱毒事件は拡大するばかりだった。しかし、正造の直訴は在京大学生の猛烈な鉱毒反対運動を呼び起こす。やむなく、政府は翌明治三五年秋、谷中村を遊水池にして鉱毒水を溜めこむ構想を打ち出す。鉱毒問題を治水問題にすりかえたのである。

明治三七年、住民と運命をともにする覚悟で谷中村に移り住んだ正造は、栃木

脅迫、懐柔、買収にも丸腰で対抗した正造

その奸知に驚嘆」（『臨終の田中正造』）
していたという。

と、宇井純・沖縄大学教授は語る。こうして、当時、栃木県選出の立憲改進党代議士・田中正造が立ちあがったのだ。「人民に、かかる害悪を与えているのが、農商務大臣には見えないのか！」

正造は、明治二四年一二月の第二帝國議会で陸奥宗光農商務大臣（当時・四七歳）を攻撃。それを皮切りに、その後半生を鉱毒公害と闘うことになる。ちなみに、「原因確実ならず」と答弁を続けた陸奥大臣は、その次男・潤吉を古河の養子にした間柄だった。

正造は、国会で政府を非難しては足尾問題に人々の注目を向けさせたが、鉱毒事件は拡大するばかりだった。しかし、正造の直訴は在京大学生の猛烈な鉱毒反対運動を呼び起こす。やむなく、政府は翌明治三五年秋、谷中村を遊水池にして鉱毒水を溜めこむ構想を打ち出す。鉱毒問題を治水問題にすりかえたのである。

明治三七年、住民と運命をともにする覚悟で谷中村に移り住んだ正造は、栃木



▲明治35年刊行の岩崎留堂「田中正造奇行談」に掲載された、田中正造の直訴の情景。当日の正造のいでたちは、五つ紋の羽織に木綿の袴だったという。

黒の紋服、袴に白髪を長髪をたばねた田中正造（六〇）は、直訴状を高くささげていた。騎兵の一人が、とっさに馬の向きを変え、槍を持って彼をささげる。正造はかわそうとしてつまずき、倒れこんだ。そのはずみで、騎兵は馬もろとも転倒。すぐに警備の巡査二人が駆けつけ、彼を取り押さえた。何事もなかったかのように、天皇の行列はその場を走り去っていく。「草莽の微臣田中正造、誠恐誠惶頓首頓首、謹テ奏ス」で始まる直訴状には、足尾銅山による渡良瀬川沿岸の鉱毒汚染の実態が美濃紙六枚にわたって綴られ、国家に被害地の復旧を求める内容だった。

毎日新聞社の記者で、足尾銅山を取材した社会主義者の木下尚江（三三）は、この日の様子を次のように記している。「君らに叱られにきた」。こう言うて（編集室にきた）幸徳は恐縮している。（中略）幸徳はおもむろに直訴状執筆の始末を語った。昨夜、翁は麻布宮村町の幸徳の門を叩き起こした。それから、鉱



▲田中正造夫人のカツ子。16歳で正造に嫁ぎ、生涯、支え続けた。

毒事件に対する最後の道として、身を棄てて直訴に及ぶの苦衷を物語り（中略）『直訴状など誰だつて嫌だ。けれど、多年の苦闘に疲れ果てた、あの老体を見ては、厭だと言つて振り切ることができないか。』こう言いながら幸徳は、僕を睨んだ（木下尚江『臨終の田中正造』）

直訴状は、後に「大逆事件」（明治四三年）で死刑になる幸徳秋水（三〇）が、正造に頼まれ代筆したものだった。

正造は議会で、足尾銅山事件解決に望みを失い、衆議院議員を辞職したうえで、直訴という決死の拳に出たのだが、麹町警察署に連行された後、あつてなく釈放される。政府が彼を狂人扱いし、直訴の罪を不問にしたからだだった。

渡良瀬川から約八キロ離れた栃木県の小中村（現・佐野市）の名主の家に生まれ、明治三年から一〇年間にわたる国会議員時代には、政府を徹底追及したことで名をはせた正造は、「政府の野郎、この田中を狂人にしてしまひやがった」と言つて、笑うに笑われず、怒るに怒られず、

向氏

こうして抵抗を続けた正造だが、大正二年九月四日に胃癌で没する。享年七三だった。その四年後、残留民もついに谷中村から追い払われた。正造の生涯をかえりみて、日向氏は言う。

「人は予を狭量なりと云う。予をして狭量ならざれば、正造はなきなり。狭くして漸く在するのみ」という言葉を真に実践した正造は、その激しい生き方のため、現代にいたるまで人の理解を遠ざけました。しかし、正造に学ぶと、日本の近代以降が見えてきます。現憲法の意味も教えてくれるのです」

企業と癒着して自然を壊す政治に対し、庶民がみずからを守る戦いに最期まで献身した正造。その激烈な生涯は、現代の日本人にも多くの教訓を残している。

田中正造研究にたずさわる作家の日向康氏は、そう語る。明治四〇年七月、谷中村は無惨にも強制破壊される。その後、一九戸の村民は洪水地に仮小屋を建て、栃木県を相手に訴訟を開始した。

「強制破壊後は谷中撤退もやむなしと考えた正造でしたが、残留民の抵抗の姿に心を打たれる。先に正造はキリスト教に触れていましたが、この残留民からあらためて人間の尊厳を悟ります。徹底的に聖書と憲法を読み、新境地を開いた正造は、なおも村復活の闘いを続けます」（日



▲当時の足尾銅山。明治10年、古河市兵衛の所有となり、新採掘技術の導入などで、産額が増大。



▲銅山の廃石に含まれている、硫酸銅などの毒物に汚染された土の除去作業。足利郡久野村にて。

「やは肌のあつき血汐にふれも見で」 鉄幹のもとに走り、衝撃の歌集刊行！ 与謝野晶子『みだれ髪』にこめた「愛と情熱」



▲明治34年9月、晶子と与謝野鉄幹は、木村鷹太郎の媒酌で結婚。その後、まもない頃の二人。

◀神戸における新詩社同人。後列左端が与謝野鉄幹。
「明星」第8号(明治33年11月号)に掲載された。



封建的な道德観を無視し、自我を主張して愛や性を奔放に歌った風(与謝野)晶子の歌集『みだれ髪』は、刊行当初から若者たちの大きな支持を得た。妻子ある与謝野鉄幹との恋、故郷を捨てての上京など、その生き方も歌同様に情熱的であった。かくして晶子は明星派の女王となり、後に「君死にたまふこと勿れ」などの名作を生むこととなる。

文壇に大きな衝撃 若者は圧倒的支持

明治三十四年八月一日、鳳凰子(二二二)の処女歌集『みだれ髪』が刊行された。

発行は与謝野鉄幹(二二八)が短歌改革のために興した東京新詩社、発売は伊藤文友館であった。晶子の上京が六月上旬(諸説あるが、ここでは一〇日説をとる)であったことを考えると、画期的な早さでの刊行と言えよう。

白馬会の新進画家・藤島武二(二三三)の手になる表紙絵も画期的だった。ハートの中にみだれ髪の女性の顔をおさめ、そのハートに刺さった矢が三輪の花を散らすという大胆なデザインである。歌集の判型は新書判を縦長にした三六判で、本文一三八頁、定価は三五銭であった。しかし、なによりも画期的で、型破りだったのが歌集の中身である。

やは肌のあつき血汐にふれも見で

さびしからずや道を説く君

罪おほき男こらせと肌きよく

黒髪ながくつくられし我れ

このような情熱的な歌が三九九首、一冊に三首ずつ並んでいるのだから、話題にならないはずはなかった。「やは肌」「黒髪」「乳ぶさ」「ひと夜妻」「うなじ」「御口を吸はむ」などという言葉が、当時はどれほどセンセーショナルだったことか。発売から五日目には「東京朝日新聞」がさっそく新刊紹介コーナーで取り上げ、「春みじかし何に不滅の命ぞとちからある乳を手にながらせぬ」の一首など女性の作としては如何はしきものあり」と論じている。

この歌集が文壇に与えた衝撃も、並大抵のものではなかった。英文学者の上田敏(二二七)は「舞姫」の章について「女史が専ら鳴東の花ともいふべき舞妓共の美しき姿態と、あどけなき動作とを風詠し、ミューズの支配の至る所にあまねきをあばきたるは、いかに公明の心胸ぞや」と絶賛し、山県三郎主幹の投稿雑誌「文庫」(二〇月刊)に掲載された「新派歌人評論」も「縦横無比、左回右旋、奔放跳躍、万千の奇態を極尽して三十一文字



▲晶子の生家である堺の駿河屋。右は晶子の長男・光。大正末頃。



▲明治34年8月に刊行された『みだれ髪』。装幀は藤島武二。

の能事畢れること、この女詩人の如きは稀なり」と手放しでほめている。しかし、すべてが好意的だったわけではない。いや、むしろ「乱倫」の書であるとの見方が方が支配的だった。たとえば、短歌雑誌「心の花」は合計方式で『みだれ髪』を組上に乗せ、めった斬りにしている。「著者は何者ぞ、敢へて此の娼妓、夜鷹輩の口にすべき乱倫の言を吐きて、淫を勧めんとはする」と晶子を娼婦に見立てたかと思うと、「病みませるうなじに織きかひな捲きて熱に



▲鉄幹をめぐるライバル関係にあった晶子(右)と山川登美子。

かわける御口を吸はむ)これを絵にかいたらどういふ立派なものが出来よう。(中略)随分春画に近いものだ」と春画になぞらえてみせる。

どうやら、守旧派は、二三歳のうら若き女性がこのような歌を詠むことに嫌悪感を抱いたようだ。だが、若い世代の受

け取り方は違っていた。晶子の恋愛に対する途な姿勢、旧習に縛られず自由に飛翔する精神などが、若者たちの圧倒的支持を得ていくことになる。「一時は奇才を誦はれたれども、浮情浅想、久しうして堪ゆべからざるを覚ゆ」と酷評した評論家・高山樗牛(三〇)の予想をくつがえし、『みだれ髪』は次々と版を重ねていく。

老舗菓子店のいとはん 情熱の歌人へと変身

鳳晶子(戸籍では志やう)は、明治一年二月七日に、堺市甲斐町の老舗菓子店「駿河屋」の三女として生まれた。当時の堺は気風が荒かったため、両親は晶子を世間から隔絶して育てた。いわゆる箱入り娘だったのである。



▲「明星」明治三十四年一月号。表紙は一条成美が描いた。

女たちの肖像

稲葉真弓

「愛国婦人会」を創立した 「軍国主義社会の母」 奥村五百子の熱血ぶり!

日清戦争から日露戦争へと続く緊迫した時代の中であつて、この年の三月二日、「愛国婦人会」が結成された。同会は、戦傷兵の救済、戦没兵の遺族の援護を目的とする婦人の組織で、総裁名誉会長には皇族を推戴、華族、実業界の上流夫人たちが会員として名をつらねた。会を発足させたのは、国粋主義を貫いた婦人運動家の奥村五百子(五五)である。彼女は発会式で、「陸海軍の兵士が忠死をとげなければ、わが日本婦人は一日も安穩にはしておれない」と演説、感きまりついに壇上で声を上げて泣き出し、参会者を感動させた。

機関誌「愛国婦人」を発行するかわら、全国を遊説、一年後の三五年には会員数一万四〇〇〇人、日露開戦後の三八年には四六万人余、日中戦争の起きた昭和二年には全国津々浦々にまで「愛国婦人会」の名は広まり、三三〇万人の会員を擁する大組織に発展。五百子は「軍国主義社会の母」とでも言うべきシンボルとなつていった。



▲唐津の遺産にも力をつき、製薬会社を創設。

彼女の熱血と男まじりの性格は、幼少時に体験した倒幕運動と無縁ではない。弘化二年(一八四五)、佐賀県唐津の真宗の寺に生まれた彼女は、父が勤皇派だったため、尊攘倒幕運動のため男装姿で萩藩へ密書を運ぶ使者として乗りこんだり、西郷隆盛や高杉晋作と接することもある「少女志士」として育った。慶応二年(一八六六)、同じ真宗派の寺の住職と結婚したが、二年で死別。明治三年、尊攘運動の同志、水戸藩浪士・鯉淵彦五郎と再婚。三人の子どもをもうけたが、明治新政府に対応できず無氣力になった夫に絶望、二〇年、離婚した。持ち前の熱血、政治好きの血が頭をもたげるのはこのあたりからである。

帰郷後は、初の衆議院議員選挙に立候補した同郷の天野為之の選挙運動に奔走したほか、唐津開発のため、養蚕・製糸業を興すなど実業家としても手腕を振るった。

「愛国婦人会」設立のきっかけは、明治三年、皇軍慰問使に加わり、天津、北京など戦地での兵隊たちの悲惨な実情を目のあたりにしたことにある。「日本の兵隊は国に命をささげている。それを援護するのが、日本婦人のつとめではないか」。彼女は同県人の小笠原長生や近衛篤磨などを説得、「愛国婦人会」設立を実現させ、全国遊説、傷病兵の慰問に駆けまわったが、病で倒れ、三九年同会を引退。半年後の明治四〇年二月、入院先の病院で死去した。

勝者・敗者

阿部珠樹

日本人初のラグビー試合! 慶応義塾vs.外国人クラブ 三五対五と「大健闘」で敗退

近代スポーツの起源については、伝説や作り話が多く、研究者を悩ませているが、こと、日本のラグビーに関してははっきりしている。

日本にラグビーが紹介されたのは明治三年。慶応義塾の英語教師で、横浜生まれのエドワード・クラークによってであった。ラグビーは一八二〇年代、英国のラグビー校でフットボールの試合中、ボールを持つて駆け出した生徒によって偶然生まれたとされているが、日本に紹介された時は、ひととおりルールも整って、近代スポーツの体裁を備えた「完成品」であった。

クラークは慶応の学生たちに、このジェントルマンのスポーツを教えこんだのだが、その右腕となって活躍したのが日本ラグビーの父とも呼ばれる田中銀之助(二八)だった。田中は慶応のOBではなく、学習院からケンブリッジ大学に留学した若い銀行家だったが、留学時代にラグビーに親しんでおり、日本語があまりできないクラークに代わって、この新しいスポーツを学生たちに伝授していった。クラークもケンブリッジの出身ということで、二人はこのほか気が合ったようだ。

そして学生たちに教え始めてから二年後、この年明治三十四年、そろそろ本格的な試合をしてみようという話を持ちあがる。もちろん試合といっても、日本人のチームは慶応しか存在しない。そこで横浜の外国人ク

降り立った。それを着流し姿の鉄幹が迎える。連れていかれたのは、渋谷・道玄坂の住居兼用の東京新詩社だった。八畳一間と六畳が二間、それに三畳と玄関という家が晶子の新しい住まいであり、活動の場となったのである。

『みだれ髪』が投じた波紋が世の中に広がっていくこの年九月、鉄幹と晶子はバイロンの翻訳者として知られる木村鷹太郎の媒酌で結婚した。生涯に五万首の歌を詠み、近代日本最高峰の女流歌人となる与謝野晶子の誕生である。

みだれ髪

鉄幹

「みだれ髪」は本文。399首が「胭脂紫」「運の花船」など6章に分けられて収録されている。本文138ページ。



▼「みだれ髪」本文。399首が「胭脂紫」「運の花船」など6章に分けられて収録されている。本文138ページ。



▲横浜の外国人クラブチームとの試合に出場した慶応チーム。中央、白いシャツの二人がクラーク(左)と田中銀之助(右)。

1901

フォト＋日録で再現する365日

二〇世紀第一年の日本は増税騒ぎで明けた。そして、南下するロシアとの神経をすり減らすような外交交渉。八幡製鉄が創業、発達する電車が各地で人力車と軋轢を繰り返したこの年、アメリカでは大油田が発見され、U.Sスチールとカーネギー財団が設立された。

◀滝廉太郎、ドイツ留学(4月6日)東京音楽学校(現・東京芸大)の辞令を受け、この日横浜を出航。10月からライプツヒ音楽院に入学した。しかし結核にかかっていた滝は、明治36年、28歳の若さで亡くなった。

(日本近代音楽館提供)



日録 20世紀1901

1月



ノーボスチ通信社

▲チェーホフ作「三人姉妹」初演(1月31日)すでに不動の地位にあった劇作家が、モスクワ芸術座のため書き下ろし、大評判となった。写真は第4幕、婚約者を失って悲嘆にくれる末娘。



HULTON GETTY/オリオン・プレス

◀「滑稽新聞」誕生(1月25日)ジャーナリスト・宮武外骨(34)が大坂で創刊。痛烈過激な記事を風刺画入りで載せて人気を博したが、しばしば弾圧された。左は、この頃の宮武夫妻。



聞新蓄滑

▶エドワード7世、国王就任(1月22日)栄光の大英帝国の象徴・ビクトリア女王の後を継いだ。59歳。庶民的な性格で、国民に人気があった。写真は翌年の戴冠式で。



吉野孝雄提供

◀オーストラリア連邦設立(1月1日)白人優先をうたう白豪主義を掲げ、英国自治領として旗揚げ。ビクトリア女王の祝辞が披露され、盛大に祝典が行われた。写真はシドニーで行われた式典。

▲テキサスで大噴油(1月10日)硫黄鉱床をさがしていた鉱山技師・ルーカスが幸運にめぐまれた。噴出量は1日11万バレル。テキサスのオイル・ラッシュが始まった。



興市企画部海事博物館推進室提供

▶戦艦「初瀬」完成(1月18日)英・アームストロング社で建造。前年完成の「敷島」「朝日」に続き、3隻目の強力な新型戦艦だった。翌年には「三笠」も完成する。



Image Library (State Library of New South Wales) / デジタルハウス

明治34年1月

- 1(火) ●慶応義塾で、一九一〇世紀送迎会開催。マダガスカル島に世界初の自動車道路が開通。
- 2(水) ●東京・魚河岸、初市に五万人。不況で売り上げの七割が鱈。
- 3(木) ●初荷は前年比五割にも満たない、と新聞に。
- 4(金) ●米国でカーネギー財団設立。
- 5(土) ●横須賀軍港には軍艦三〇隻余が停泊。軍人景気で料理店・寄席など大にさわい、と新聞に。
- 6(日) ●年賀状は前年比四四五通の増加、と新聞に。
- 7(月) ●露、韓国の中立化を日本に提案(23日、満州)。中国東北部からの露軍撤退が先決、と回答。
- 8(火) ●北越鉄道・塚の山トンネルで、崩壊土砂に列車が乗り上げる。奇跡的に人的被害なし。
- 9(水) ●ビール業界、義和団事件の戦費などにあて、るため政府が検討中の、増税に反対する決議。
- 10(木) ●米国・テキサス州ボモントで、大油田発見。大阪の十日戎、大混雑で将棋倒し、女兒庄死。
- 11(金) ●露、清国が秘密条約締結の風説、と新聞に。
- 12(土) ●文部省、教科書審査・採用めぐると不正事件頻発に対し、規則を改正し、取締り強化。
- 13(日) ●葉煙草専売法違反が一万数千人、と新聞に。
- 14(月) ●本年は年賀状に給はがきが流行、最高級品は華村筆の彩色花鳥図で一枚五銭、と新聞に。
- 15(火) ●国民同盟会、露が西太后派と結んで東三省の権益確保をねらう(露清密約)に反対決議。
- 16(水) ●正岡子規、「日本」に随筆「墨汁一滴」を連載。
- 17(木) ●熊本電話局開業、交換業務開始。
- 18(金) ●川上喜一郎、夏奴ら、パリから帰国。
- 19(土) ●東京・伝通院の娘相撲、風俗乱すと営業停止。
- 20(日) ●東京市参事官収賄事件の予審終結、全員有罪。
- 21(月) ●大阪商船「淡水丸」、金門島付近で座礁、沈没。
- 22(火) ●英国のビクトリア女王が死去、エドワード7世が王位継承。ビクトリア朝時代終焉。
- 23(水) ●仏の病院に、世界初の女性インターンが誕生。
- 24(木) ●品川沖の海苔は北風が少なく不作、と新聞に。
- 25(金) ●臨時商業会議所連合会、私鉄買収と公債償還は外債募集で行うべきとの請願を決議。
- 26(土) ●政府、酒・砂糖などの増税案を衆院に提出。
- 27(日) ●東京市内の銭湯に葉湯が流行、と新聞に。
- 28(月) ●東京・深川不動の緑で物乞い(〇人逮捕)。
- 29(火) ●清国で変法の詔勅、政治の近代化のめざす。
- 30(水) ●東京・本所の有座で、義和団事件、活動写真会。
- 31(木) ●横浜で、新築の芝居小屋「雲丹座」舞台開き。



▲内田良平(27)、黒電を組織(2月)ロシアを警戒する大アジア主義を掲げ、日本の大陸進出に暗躍。写真は、玄洋社時代の内田(後列中央)と頭山滿(前列左)。



CORBIS-BETTMANN / PPS



山口製鉄所

▲J・P・モルガン、USスチール社設立(2月25日)世界一の鉄鋼メーカー、カーネギー製鋼会社をついに買収。政権をも動かす金融王が、全米鉄鋼生産の7割を占める巨大会社を誕生させた。

▲福沢諭吉死去(2月3日)慶応義塾の創立者で、「西洋事情」などを著し、日本の近代化を推進した功勞者だった。66歳。写真は、幅広い参列者を得て盛大に行われた8日の葬儀。



Topham / ユニフォート・プレス

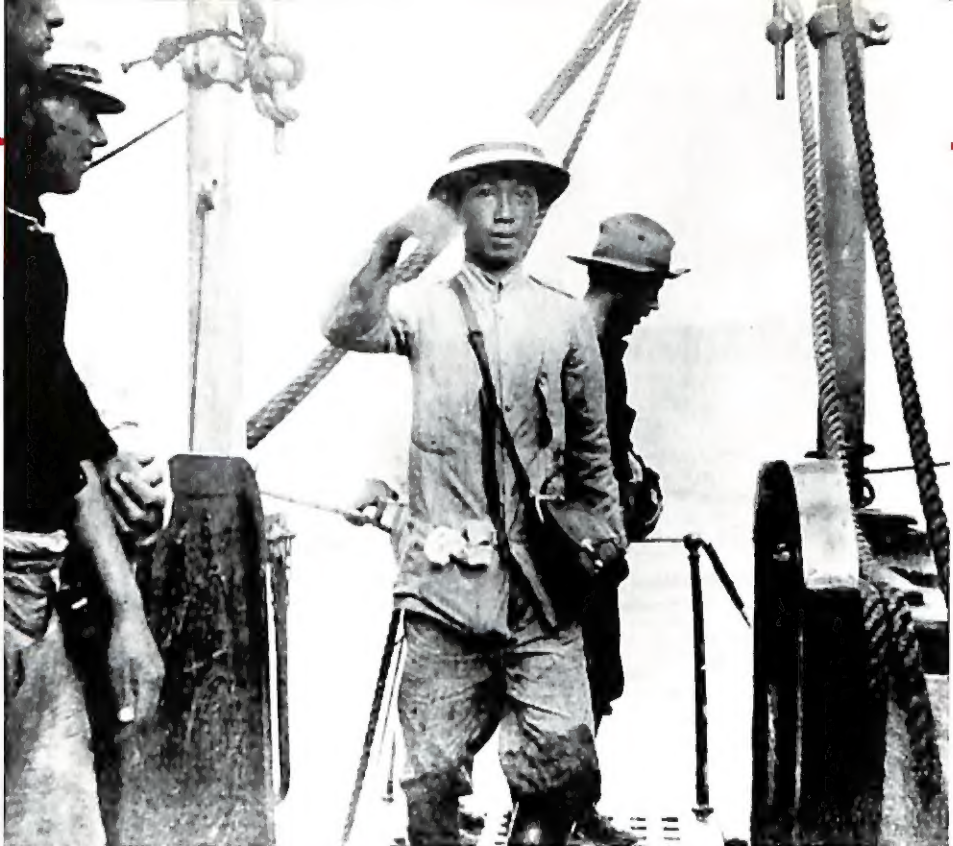
▲ボア戦争、和平に失敗(2月27日)ボア側がイギリスの支配を拒否、英軍は無差別掃討作戦を開始した。翌年、トランスバルは英直轄地に。写真は進撃する英軍。



▲八幡製鉄所が始業(2月5日)第1号溶鉱炉の火入れ式を挙。原料は輸入、技術はドイツに依存しながらも、福岡県八幡村に年産9万トンの一貫設備。官営による、日本初の近代的製鉄がスタートした。

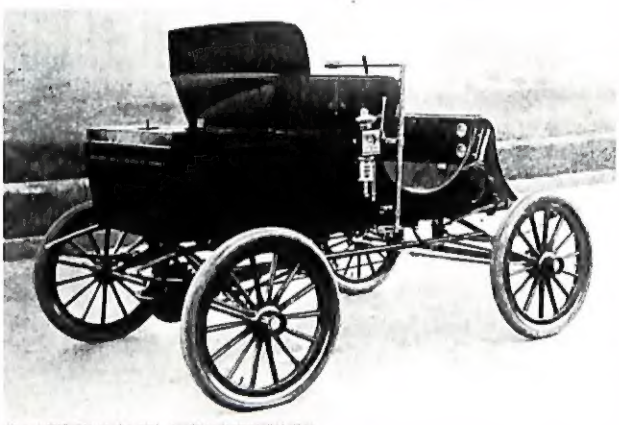
平凡社提供

▶孫文、南方熊楠を訪問(2月)中国革命の闘士が、異能の生物・民俗学者と和歌山で再会。ロンドン亡命中に、大英博物館勤務の熊楠と親交を重ねていた。中央が孫文(34)、左から二人目が熊楠(33)。



CORBIS-BETTMANN / PPS

▲フィリピン革命挫折(3月23日)執拗なゲリラ攻撃もおよぼす、指導者・アギナルド(写真、32)は逮捕。米國がスペインに代わって、宗主國となった。



佐々木烈(明治の輸入車) / 日刊自動車新聞社提供

▼河口慧海、ラサに入る(3月)前年、単身密入。チベット人に化け、念願のセラ大学修学僧侶となった。35歳。2年後発覚し、脱出。明治36年に帰国した。



▲自動車初輸入(3月)横浜ブルウル商会に、米国製「ナイアガラ号」(写真)が到着した。エンジンは8馬力の蒸気機関。外国人が持ちこんだことはあったが、販売目的で自動車が輸入されたのは初めて。



証言・あの日この日 原 敬(45)



6月21日(金)〈人生全く夢の如し。本人は種々の悪評を受けたけれども、世人の想像するが如き奸悪をなす者にあらず、案外淡泊の人にして、金銭に就ては綺麗な男なりしなり。而して才気もありたれども随分剛愎にして、常に強硬なる態度を取り、真に政友会の柱石なりしが、不慮の災に罹る、真に惜しむべし。政友会に取りても非常の損害なり〉(原敬「原敬日記」)

伊藤博文を中心に結成されたばかりの新政党「政友会」の中心メンバーとして活躍していた星亨が、この日、刺殺された。原は、その直前まで星亨と将棋をさしていたので、この突然の凶事に驚く。しかし、皮肉にもこの星亨暗殺事件を契機に、いよいよ政党政治家・原敬の活躍が始まる。またこの暗殺事件は伊藤博文、原敬と続く政友会の暗殺の歴史の序曲でもあった。(山崎行太郎)



「太閤」

▲司法官、同盟辞職(3月24日)衆院が俸給アップと増員を予算から削除したため、東京地裁の22人が決意。写真はそのうちの14人。5月、金子法相の論告で落着。

▶ヘディン(36)、樺間を発見(3月)スウェーデンの地理学者が2回目の中央アジア探検で、多数の古文書を発見し、漢代のオアシス都市の存在を実証した。

bpk / デジタルハウス

明治34年2月

- 1(金) ●京浜電鉄の大森・川崎間で運転開始。
- 2(土) ●実業家・岩崎弥之助、カナダの生命保険会社と一〇万円の保険契約。
- 3(日) ●国家主義団体「黒電会」発会式(主幹 内田良平)。
- 4(月) ●八幡で黄熱病を媒介する蚊の撲滅運動開始。
- 5(火) ●八幡製鉄所、第一高炉の火入れ式。操業開始。
- 6(水) ●明治三年度米は前年比三・三割増と新聞に。
- 7(木) ●神奈川県下の有志、同県初の信用組合を出願。
- 8(金) ●全国売薬業者総代、薬に印紙を貼る課税法を改正(印紙廃止)するよう、蔵相に請願。
- 9(土) ●日本鉄道が、水戸・鶴梅の臨時列車を半額の料金で運行、と新聞に。
- 10(日) ●青森歩兵第二連隊、三日間の雪中行軍完了。
- 11(月) ●広島電話交換局開業。交換開始。
- 12(火) ●東京の新橋銀行鉄砲洲支店が支払い停止。
- 13(水) ●加藤外相、清国公使に、「義和団事件」処理で、ロシアに特殊な権益を与えないよう勧告。北海道・夕張炭鉱でガス爆発、一七人死に。
- 14(木) ●京浜電鉄開通で大森駅の車夫困窮、と新聞に。
- 15(金) ●奥羽本線の赤湯・上ノ山間、開業。
- 16(土) ●露、満州撤退の条件として、中国東北部・中央アジアでの権益確保などを清国に要求。
- 17(日) ●東京・神田の若い女性ばかりの理髪店が大繁盛。理髪組合との紛争が生じる。
- 18(月) ●憲政の増税反対派代議士三十四人、脱党し、三四俱樂部結成。
- 19(火) ●教育勅語撤回の風説につき、衆院で質問書。政府は事実無根と否定。
- 20(水) ●オーストリア人の独語演劇を歌舞伎座で公演。
- 21(木) ●アインシュタイン、チューリッヒ市民となる。
- 22(金) ●露、清国に新要求。満州での清国の主権制限、鉱山利権の独占など。
- 23(土) ●英・独、独領東アフリカと英領ニアザランドの境界画定協定に調印。
- 24(日) ●奥村五百子、愛国婦人会を創立。戦没兵士遺族の救済活動などをめざす。
- 25(月) ●米国の金融王・モルガン、カーネギー製鋼などを買収し、USスチール社を設立。
- 26(火) ●清物用米が豊作で一束約一二銭、と新聞に。
- 27(水) ●ボア戦争第一次平和会議、ボア側が英への合併を拒否し、失敗に終わる。
- 貴族院本会議で増税案否決が濃厚になったため、政府は詔勅求め一〇日間の停会を命令。
- 28(木) ●警視庁、脱出用の英国製救助袋をテスト。

明治34年3月

- 1(金) ●一高で、西表寮歌「春爛漫の花の色」発表。
- 2(土) ●米議会、キューバ干渉の権利を規定したフラット修正案可決。キューバを実質的に支配。
- 3(日) ●輸送力増強のため列車の速度を向上と新聞に。
- 4(月) ●マッキンリー米大統領、二期目に入る。
- 5(火) ●文部省、履修科目や授業時間を定めた中学校令施行規則を公布、22日、高等女学校に公布。
- 6(水) ●警視庁、理髪店営業取締規則を公布。
- 7(木) ●国内鉄道総延長は約九四〇〇キロ、と新聞に。
- 8(金) ●東京・下谷の牛乳搾乳所で、感染力の強い牛痘が発生。警視庁が牛痘予防取締令を発する。
- 9(土) ●東京・池上本門寺で火災、本堂・客殿など焼失。
- 10(日) ●貴族院に、東京都制法案が提出される。
- 11(月) ●国木田独步、短編集「武蔵野」を刊行。
- 12(火) ●貴族院に、増税法案成立を命じる勅語が出される(16日、可決)。
- 13(水) ●早稲田中学内に高等実業中学校(現 早稲田実業高校)の設立が決定。
- 14(木) ●東京・早稲田の大隈重信邸が全焼。
- 15(金) ●独、英と権益を相互確認した揚子江協定の満州での不適用を表明、英の対露牽制は失敗。
- 16(土) ●神奈川県栗野で、タバコ密売の三人告発。
- 17(日) ●パリのベルナム画廊でゴッホの作品展。
- 18(月) ●大阪衛生会、買上げネズミ一匹に抽選券一枚交付し、一等一〇〇円の賞金授与を決める。
- 19(火) ●「朝報」、黒宮派を「蔵王」連戦開始。
- 20(水) ●日本、北京と漢口・ソウルに郵便局を開設。
- 21(木) ●米誌、ニューヨークで上演中の芝居の人気ナンバーワンは「アンクル・トムの小屋」と報道。
- 22(金) ●千葉県鴨川で大火、二〇〇戸余焼失。
- 23(土) ●米国のオペラ歌手、ネリー・メルバが、薄切りでカリカリに焼く「メルバ・トースト」を考案。
- 24(日) ●東京地裁の判事・検事、司法官俸給増額削減に抗議し、辞表提出(以後各地に波及)。
- 25(月) ●英・マンチェスターで、世界初の二気筒ディーゼルエンジン公開。
- 26(火) ●山口県赤松間に、ガス灯火のフグ型灯台落成。
- 27(水) ●九州鉄道が豊州鉄道を合併。
- 28(木) ●若越線で、列車が落石のため転覆。乗客は無事。
- 29(金) ●オーストラリア連邦で初の総選挙。保護貿易主義のバートンが初代首相に。
- 30(土) ●中学唱歌「刊行」「荒城の月」「箱根八里」など所収。
- 31(日) ●山梨県甲府に看護婦産婆養成所設置。



▲ドイツにモノレール開通 (4月1日) オイゲン・ランゲンが考案。ルール工業地帯の谷あいの町・ブッパータールの川の上を懸垂式で走行、13.3キロの路線を最高時速60キロで走った。



▲川上音二郎・貞奴、再渡欧 (4月6日) 前回の好評から、欧州を再度巡業。貞奴は、当時最高の女優・ドゥーゼと並称され、「東洋のドゥーゼ」と言われた。写真はニコライ2世の招宴。

▲大砲、横綱昇進 (4月3日) 前2場所、無敗だったため司家・吉田道風より免許を取得。31歳。宮城県出身。身長が197センチもあり、歴代横綱中で最長身。引き分けが多く、「分け綱」の異名も。

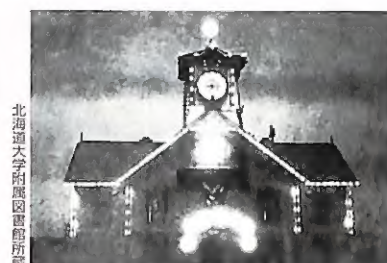
▼奥羽南線、山形まで開通 (4月) 明治27年、福島を起点に着工。写真は山形駅の開業式。38年、横手まで延長、青森からの北線と接続、奥羽本線となった。

「目で見る天童・村山の100年」/ 郷土出版社提供



▲女子美術学校創立 (4月1日) 女性的美術家・美術教師育成のため、東京・本郷に開校。翌年、日本画・裁縫・刺繍科の14人が卒業。後に杉並区に移転、昭和24年、女子美術大学に。

▲昭和天皇誕生 (4月29日) 皇太子 (後の大正天皇) と節子妃に待望の親王。号外が発行され、各地で奉祝のイベント。裕仁と命名され、5月に迪宮 (みちのみや) と称号が定められた。



▲札幌農学校創立25周年祝典 (5月) 開拓使仮学校の札幌移転・開校を記念、時計台のある練兵館が式場となった。写真は、市民を驚かせたイルミネーション。



▶榎姿の野球部 (5月) 一高を頂点に大都市で野球熱が定着、地方にも波及した。愛媛師範学校では、米人牧師が野球部を指導。選手は足袋はだして走り、素手でボールを受けた。

▲社会民主党結成 (5月18日) 軍備全廃、階級制度廃止などを掲げたため、20日に結社禁止。写真は創立発起人の、左から安部磯雄、河上清、幸徳秋水、木下尚江、片山潜、西川光二郎。



▲チェーホフ (41)、結婚 (5月25日) 新婦はモスクワ芸術座の女優、オリガ・クニツベル (31)。3年前に見そめ、結核を患っていたが、「結婚はしない」との信条を捨てた。

▶榎姿の野球部 (5月) 一高を頂点に大都市で野球熱が定着、地方にも波及した。愛媛師範学校では、米人牧師が野球部を指導。選手は足袋はだして走り、素手でボールを受けた。



▶嘉納治五郎、高等師範校長に再度就任 (5月9日) 学習院大教授、一中校長などを歴任、かたわら講道館や音楽書院を創立。教育者としての人格・職能が高く評価された。

▲山陽鉄道全通 (5月27日) 神戸側から西へ順次延長、ついに馬関 (現・下関) まで約529キロが開業した。写真は完成した馬関駅。関門・関金連絡船の発着駅としてにぎわった。



明治34年 4月

- 1月 ●第一高等学校医学部が、千葉・仙台・岡山・金沢・長崎の医学専門学校として独立。
- 2月 ●米国の策謀で逮捕されたワイルド・革命家・アキナルド、米国への忠誠を約束。
- 3月 ●東京で「第一回日本労働者大衆親会」開催。
- 4月 ●大阪砲兵工廠、ニッケル鋼を製造 (5月7日、クロム鋼を製造)。
- 5月 ●露、満州に関する露清交渉断念を宣言。満州への駐留は解かず。
- 6月 ●海軍大臣、独逸に出発。同じ船で、川上音二郎・貞奴らも、欧州興行に出発。
- 7月 ●日露海軍戦力は日本が数段優勢、と新聞に。
- 8月 ●日本・スペイン特別通商条約、公布。
- 9月 ●洋風建築の増加で板ガラスが高騰、と新聞に。
- 10月 ●長崎で清国派遣兵士が暴動、負傷者出す。
- 11月 ●奥羽南線が福島から山形まで開通。
- 12月 ●草花を模した花かんざしが大流行、と新聞に。
- 13月 ●演習法公布。漁業制度の近代化が始まる。
- 14月 ●大日本双輪倶楽部が、東京・日比谷で自転車競走・レースを開催。曲乗りも大人気。
- 15月 ●米最高裁、離婚を違法としたニューヨーク州判決をくつがえす。
- 16月 ●大阪の第七十九銀行と難波銀行が、資金不足から支払い停止。金融恐慌、西日本に広がる。
- 17月 ●司法省、司法官官給運動の指導者を罷免。
- 18月 ●台湾から帰港の「台中丸」でベスト発生。
- 19月 ●北京の列国公使団、「義和団事件」の賠償金総額四億五〇〇〇万両を清国に要求。清国受諾。
- 20月 ●日本女子大学設立、開校。
- 21月 ●幸徳秋水、「廿世紀之怪物・帝国主義」刊行。
- 22月 ●群馬県伊香保で垂硫酸ガスが発生、三人死亡。福井県の羽・重業者が、反物の長さをこまかく不正、と新聞に。
- 23月 ●広告入り団扇が流行し扇子を圧倒、と新聞に。
- 24月 ●山県有朋、伊藤博文首相に日英独同盟を建言。
- 25月 ●米・ニューヨーク州で自動車の登録制が始まる。初年度登録は九万四千台。
- 26月 ●本年の台湾・ベスト患者は八十三人と新聞に。
- 27月 ●北海道炭鉄鉄道の機関工が待遇改善要求スト。
- 28月 ●前年の造船は、英が世界の五分の三と新聞に。
- 29月 ●大正天皇の第一皇子・裕仁親王誕生 (後の昭和天皇)。
- 30月 ●官設鉄道の今年度開業は約二二〇キロと新聞に。

明治34年 5月

- 1月 ●陸軍工兵会議、軍用軽気球のテストに失敗。
- 2月 ●伊藤博文首相、閣内不統一理由に辞表提出。
- 3月 ●関西貿易の破綻を契機に京都で銀行界混乱。
- 4月 ●政府、英・グラスゴー博覧会への出品補助金、三万五〇〇〇円の支出を認可。
- 5月 ●元老会議、天皇の諮問で後継首相につき協議。
- 6月 ●米全国各地で、市電従業員が労組設立承認を求めスト、軍隊が出動して鎮圧。
- 7月 ●台湾総督府が電報発行を計画、と新聞に。
- 8月 ●インドでは、死者推定二・五万人。
- 9月 ●大阪の堂島米市場で、買い方の買いあおりから立ち会い停止。
- 10月 ●東京電話局、この日限りで男性交換手を廃止。
- 11月 ●東京・大阪の工業学校を、高等工業学校と改称。日本郵船、太平洋航路を、四週一便から四週二便に増強。
- 12月 ●遅霜などの気候不順が養蚕に打撃、と新聞に。
- 13月 ●東京の尋常小学校の授業料が二〇銭に決まる。
- 14月 ●官設鉄道列車内での物売りを禁止、と新聞に。
- 15月 ●海軍、艦内生活の助長、肺炎・気管支炎などの呼吸器疾患増加に対策、と新聞に。
- 16月 ●大蔵省、明治二年度発行以来の大蔵省証券六〇〇万円発行を告示。利率は七・五割。
- 17月 ●新造の開門連絡船は航海時間二分と新聞に。
- 18月 ●片山潜、社会民主党結成 (20日結社禁止)。
- 19月 ●人気力士の絵入り手ぬぐいが人気、と新聞に。
- 20月 ●社会民主党の宣言などを掲載した新聞・雑誌が差し押さえられ、「安寧秩序案」で起訴。
- 21月 ●肥料取締法公布。
- 22月 ●北海道の第一期鯨漁獲は前年比五万石増加。
- 23月 ●「義和団」の戦闘行動が終結。
- 24月 ●金融恐慌で日銀の発行余力が減少、と新聞に。
- 25月 ●日本郵船が世界周遊切符を発売。八九〇円。
- 26月 ●上海で、東亜同文書院が開院式。
- 27月 ●山陽鉄道の神戸・馬関 (現・下関) 間が全通。米最高裁、フェルトリコ人は事実上米市民でないと判決。
- 28月 ●京都の老舗旅館「松家」が全壊。
- 29月 ●ソールズベリー英首相、「光栄ある孤立」を主張する外交政策を発表。
- 30月 ●警視庁、ベスト予防と風俗改善のため、人力車夫・馬丁などの裸足を厳禁。
- 31月 ●金・栃木・埼玉・千葉各地に降雪。被害甚大。

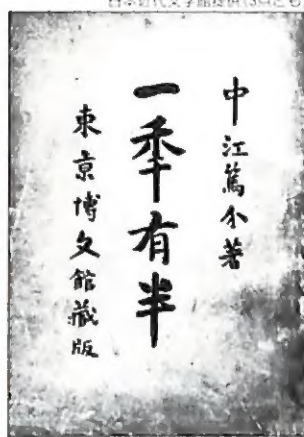
ベストセラー

癌を告知され余命を知った 中江兆民『一年有半』の感動

この年九月、反骨の思想家・中江兆民の『一年有半』が刊行され、その異様な内容が話題を呼び、たちまち版を重ねた。癌で余命一年半と宣告されてからの日録風エッセイ集だったのである。

この頃は、癌の告知はもとより余命の宣告など考えられない時代だった。喉頭癌であることを知り、そのうえで余命を測るために医師にその年限を問いただすなどということは、常軌を逸していた。それだけに、すべてを率直に記したこの本から受ける感動には、思想を超える深いものがあった。出版にあたっては弟子筋にあたるアナキストの強者・幸徳秋水が死に向かい合う中江兆民の姿勢に感銘を受け、編集に協力した。

余命をどう過ごすかについて、中江は「旅の身なれば書籍とて無く、先づ差当り当地の朝日、毎日の新聞と兼て愛読し来れる、東京の万朝報とを讀む事也、即ち此三新聞に由りて余の世界との交際を継続する事也」とし、政治的・社会的現実に対して鋭い意見を記し続けた。



▲「一年有半」(博文館、35銭)



▲「落梅集」(春陽堂、35銭)

同じ三月に国木田独步の『武藏野』が刊行され、こちらは案内書のようなところもあって評判になった。独歩の記すところによると「昔の武蔵野は豊原のはてなき光景を以て絶類の美を鳴らして居たやうに言ひ伝へてあるが、今の武蔵野は林である」そうで、その武蔵野をたくみな筆で描写し、人々を誘った。

また詩歌の方では島崎藤村の『落梅集』が刊行された。信州に滞在した時に書きためたもので、いくつかに残る詩句も、この詩集におさめられている。「小諸なる古城のほとり 雲白く遊子悲しむ…… 濁り酒濁れる飲みて 草枕しし慰む」「名も知らぬ遠き島より 流れ寄る椰子の実一つ」「昨日またかくてありけり 今日またかくてありなむ」この命をなを醒醒 明日をのみ思ひわづらふ」などである。



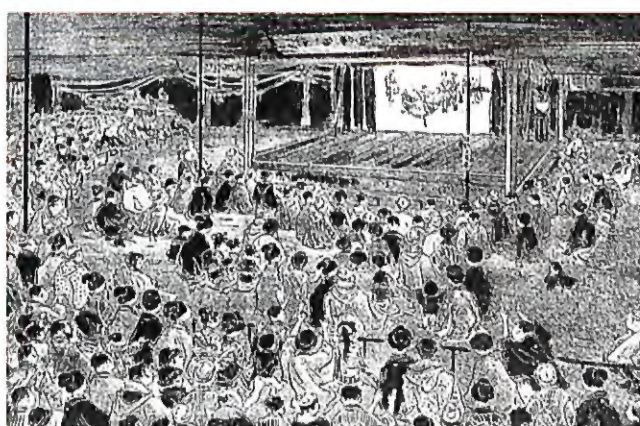
▲「武藏野」(民友社、二四銭)

スターと名場面

一月に帰国、四月に出発！ 川上音二郎が次々海外巡業

この年までに、日本でも映画興行は始まっていた。もちろん、現在イメージする映画とは違って、写真が動いて見える不思議な装置そのものを楽しむといった趣が強かった。エジソンが発明したキネトスコップ（一人一人覗き窓に目をあてて映像を見るシステム）が明治二九年に輸入・公開されたのを皮切りに、明治三〇年にはスクリーンに映して大勢で映像を楽しむシネマトグラフや、やや大型の画面を持つヴァイタスコップが輸入・公開され、動く映像を見るシステムは、斬新なエンターテインメントとして大いに歓迎されたのである。

ただ、そのソフトはまだ単純なものばかりで、汽車の通過を撮影したものや、舞踏会や戴冠式などのシーンをかいま見せるだけのものなどが多く、登場人物に有名な存在することはあっても、とてもスターが活躍する時代ではなかった。しかしそれでも、現実さながらに見えることの驚きは大きく、好評を博していたのである。



▲東京・神田の錦輝館における、ヴァイタスコップ上映の様子。画面は、西洋の舞踏を撮影したもののである。

▶明治33年に撮影され、それ以後の活動写真興行に供された、相撲の活動写真のシーン。

▼明治33年に撮影の歌舞伎「塙(にお)の浮城」の一場面。



も予想外の反響を呼んだが、川上のこの活発な活動は、後のエンターテインメントの世界に少なからぬ影響をおよぼすことになる。

モノ語り'01

超バイカラが人気のもと！ 自転車「ピアス号」、化粧水「オイデルミン」、 オルゴールの「レジーナフォン」



▼超バイカラな化粧品が人気 明治30年に資生堂が発売した化粧水「オイデルミン」が、この頃には人気商品になっていた。そのネーミングと美しいガラスの容器、中身にいたるまで、洋風の化粧水として注目を集めた。ラベルには欧文で商品名が記され、瓶の首の部分には赤いリボンが結ばれているというハイカラぶり。「資生堂の赤い水」と呼ばれて評判になり、発売から100年近く経つ現在でも多くの女性ファンを持つ超ロングセラー商品となった。

▼高級オルゴールが人気を呼んだ この頃、ディスクタイプのオルゴールがさかんに作られていたが、アメリカの「レジーナフォン」は特に人気のあったディスクタイプ・オルゴールだった。中には写真のような、蓄音機と一体になったものもあり、そのサウンドもよく響く優れた装置だった。



京都オルゴール美術館提供



▶チャリティ商品 が発売された すでに小林富次郎商店(現・ライオン)から発売されていたライオン歯磨が、明治33年から「慈善券付獅子印ライオン歯磨」として売り出され、この年には評判になっていた。販売価格3銭の小袋1枚について1厘を、しかるべき施設に寄付するというもので、大正9年まで続く慈善事業となった。20年間で集まった寄付金は、総額33万6554円50銭7厘にもなった。

ライオン史料センター蔵 奥村健太郎

▼婦人病に定番となっていた薬 津村順天堂(現・ツムラ)が明治26年の創業と同時に発売した婦人漢方薬「中将湯」は、この頃には、民間の良薬として大衆に親しまれるようになっていた。女性の冷え性や生理不順など、婦人病に効果ありとされ、積極的な広告戦略とあいまって評判をとった。発売当初の定価は1袋5匁入り、1日分が7銭で、これは米1升よりやや安い価格だった。



北原コレクション提供

自信と熱意の宣伝広告

津村順天堂の創業者、津村重吉は創業してただちに「中将湯」の新聞広告を打ち、その後も新聞を中心とした、きめ細かい宣伝広告をおこなった。

しかも印刷メディアにおける広告は、女性の生理的特徴や女性でなくてはわからない諸症状に言及するなど、啓蒙的な要素もあわせ持つもので、あくまでも「婦人」のための薬であることを強調し、女性たちを安心させたのである。

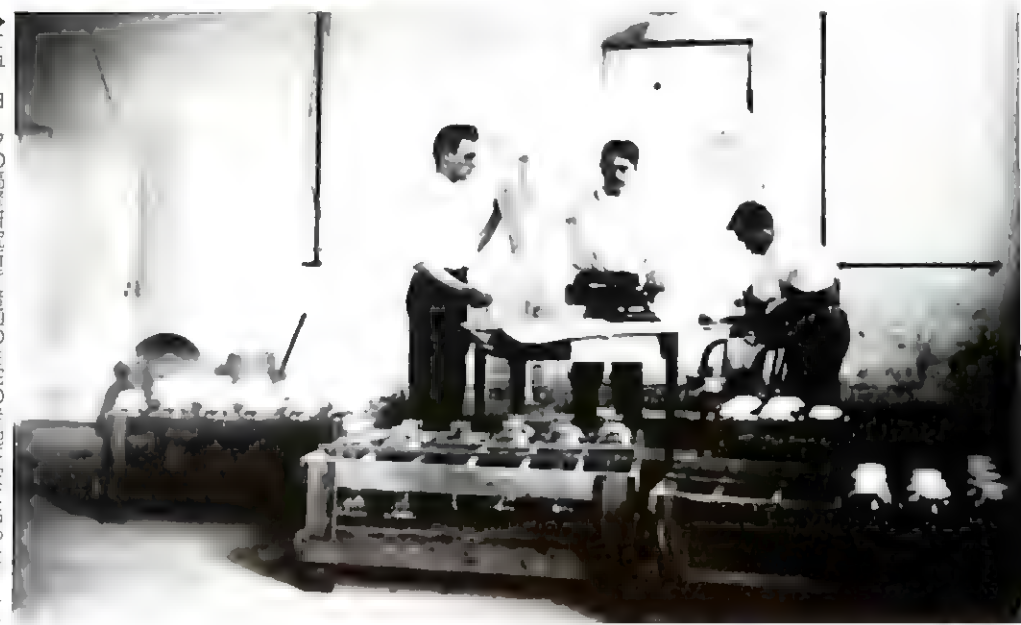
商品に対する揺るぎない自信と、そこから生まれる、熱意にあふれた積極的な宣伝広告戦略が功を奏し、「中将湯」はやがて婦人薬のベストセラーになっていった。



高峰譲吉(四六)

日本の「頭脳流出」第一号!

アドレナリンの特許を取得



ニューヨークの高峰研究所。普通の住宅の半地下室にあった。ここで明治三年六月、アドレナリンを副腎から結晶抽出することに成功

副腎から分泌されるホルモンを、アドレナリンと言う。血糖量の調節をしたり、心臓の働きを強めて血圧を上げたりする、人間の生命に深いかわりを持つホルモンである。この副腎抽出液(アドレナリン)の結晶抽出に成功した応用化学者の高峰譲吉(四六)が、明治四年七月五日、アメリカで特許権を取得した。

副腎抽出液が、血液の流れに深いかかわりがあることについては、当時すでにいくつかの説が唱えられていた。その主成分が抽出できれば、たとえば、貧血や低血圧などの病状の改善や、手術時の出血防止、さらには心臓の強化などに役立つと期待され、医学界に多大な貢献ができると思われるのであつた。しかし、世界の名だたる学者たちの試みにもかかわらず、副腎主成分の分離は至難の業だった。

それは約一年前の、明治三年六月九日の朝のことだった。場所はニューヨークの高峰研究所。高峰の共同研究者・上中啓(当時、二四歳)は、前夜残っていた試験管の底に結晶を発見した。

色は白色で、これが副腎主成分の純粋結晶なら過塩化鉄を加えると緑に変色するはずである。はたして結晶は緑色に変わり、不純物のないものであることが証明された。高峰はこれをアドレナリンと命名、ドクター・タカミネの名声に加え、高峰は巨大な富をも獲得することになったのである。ちなみに、高峰が亡くなった時、動産・不動産を合わせて約三〇〇〇万円(現在の額で約六兆円)の財産が残されていたと言われる。

高峰譲吉は、安政元年(一八五四)一月三日、越中国高岡(現・富山県高岡市)生まれ。父は蘭方医で、高峰が一歳の時、主藩の金沢に典医として迎えられ、一家は金沢に移った。八歳で藩校の明倫堂(めいりんどう)に入学。そして、一歳の時、選ばれて長崎に留学し、英語を学んだ。

明治二年に工部大学校(現・東京大学工学部)の応用化学科を首席で卒業。三年、イギリスに留学して、六年に帰国。同年、農商務省工務局に入り、ここで発酵・醸造の研究に取り組むことになったが、これが高峰の将来を決定する転機になった。

高峰はその後、人造肥料の製造などを手がけ、日本の化学工業に重要な足跡を残して、明治一〇年、アメリカ出張中にアメリカ人女性、キャロラインと結婚。帰国後渡米して定住、アメリカでの研究生活が始まった。

高峰の名を、躍り名にしたのが、小麦皮殻を使った麹菌製造法の研究から生まれた、七年のタカジアスターゼの発明だった。それはウイスキーの元麹を製造する過程で生まれた画期的な消化酵素だった。明治四〇年にはアメリカのパーク



左から、長男 豊吉(ジョー・ジュニア)、次男 エーベン。一八九一年の撮影

デービス社で製造、世界中でその効果が絶賛された。日本では明治三二年に設立された三共商店(現・三共)で輸入販売され、現在も商品名にその名をとどめている。

高峰の研究は以降、パークデービス社の求めで副腎抽出液の研究に移り、上中啓という優れた共同研究者を得て、アドレナリンの抽出成功にいたるのである。科学者としての高峰をこう語る。

「大正六年にできた理化学研究所は高峰の進言によるものですが、研究所という、上からのものでない研究機関のあり方は、科学に対する高峰の考え方を示すものです。その意味で高峰は、科学者としてリベラリストであつたと言えるでしょう。大正一一年七月二日、明治人の気骨をたずさえて、『頭脳流出』第一号として、高峰はアメリカで没した。六七歳だった。



▲妻のキャロライン。明治十七年にアメリカに出張した高峰譲吉は、彼女と知り合い、二〇年に結婚する。以来、二人の穏やかで愛のある結婚生活が続いた。

大英帝国に六二年間君臨！ 地球の四分の一を占めた 国母ビクトリア女王の死

ビクトリア女王（八二）の遺骸を乗せた砲車が、兵士たちに引かれ、ゆっくりとウインザー城に向かって進んでいく。その後ろには女王の長男で新国王のエドワード七世（五九）、孫でドイツ皇帝であるウイヘルム二世（四二）などがつき従っていた。一九〇一年二月二日に行われたこの大葬は、亡き女王の希望により、軍葬で行われた。街は沈黙の固まりと化し、馬蹄が石畳を蹴る音、刀剣がぶつかり合う音のみが響き、イギリスの日報「タイムズ」は女王の死を「癒しようなない喪失感」と表現した。

ビクトリア女王は一月二日、ボートマス沖ワイト島にあるオズボーン宮殿（別邸）で危篤状態におちいり、医師団は「肺の神経の不感痺」という診断を下した。同日午後四時には、女王はゆるやかに沈降しつつあられされる」という容態書を公布。駆けつけた親族が見守る中、女王は午後六時三〇分に息を引き取り、その一〇分後に「女王が平安のうちに隠れになりました」と国民に伝えられた。ビクトリア女王は八歳で王位につき、八歳で死ぬまでの六三年間、イギリスの君主であった。この期間を「ビクトリア朝時代」と言うが、この時代こそは、

イギリスの国力が最も充実した時代である。強力な海軍力を背景に、アジア、アフリカ、太平洋に急速に植民地を広げ、一八六〇年代には、五〇万平方マイルだった植民地（植民地の人口約一億五〇〇万人）が、一八九九年には一六〇万平方マイル（人口一億五〇〇万人）と、実に地球の面積の四分の一を占める史上最大の大帝國になっていた。この大帝國の「国母」こそがビクトリア女王であったのだ。

彼女の長い人生を俯瞰すると、一八歳で女王となり、二年後に従兄弟のアルバート公（ドイツ人）と結婚。理想の家庭を築く若妻として九人の子どもを生み、主婦と君主という二つの仕事を両立させ、国民に愛された時代（一八三〇年～一八六一年）。

愛する夫・アルバートを失い（一八六一年）、寡婦としてすごした時代。この時代は、喪服を着て、ウインザー城にこもりがちであった。こうした彼女に対して、共和主義者の台頭などもあり、女王退位論が起るなど危機の時代でもあった（一八六一年～一八七六年）。

一八七六年にインド女帝に即位。軍の統帥権が完全に議会に帰属するなど、政治的権力は時代とともに失っていったが、



▲ビクトリア女王（写真中央）と、その家族・親族。1896年の撮影である。この年9月、ビクトリア女王は、これまでの英国王の誰よりも長い治世を誇るようになった。Peppercorn 1 141 71 2

一方で国家の象徴として、権威ある女王として、近代君主制の模範として生きた時代（一八七六年～一九〇一年）。

と、二つの時期に分けられる。一八八七年には在位五〇周年、一八九七年には在位六〇周年の盛大な式典を行い、世界の植民地から首長や兵士が続々とロンドンに集まり、彼女に忠誠を誓った。

晩年の女王は車椅子に座って人々の前に現れ、凛とした声でドイツ訛りの英語を喋り、小太りな体に、世界中の尊敬と

敬愛を集めていた。すでに初老に達していた皇太子は「母が天国にいくのを躊躇するのは、そこでは天使たちの方が上席につくからだ」と皮肉な冗談を言うほどであった。しかし、一九〇〇年の夏から食欲を失い、不眠に悩み、半年後にあつてなくこの世を去ったのである。

セント・ジョージ礼拝堂に安置された彼女の棺は、子どもの棺のように小さく、人々は「九世紀の栄華」に静かに別れを告げた。



▲二月四日、ウインザー城に向かうビクトリア女王の葬列。女王はのすから置き残した葬儀の式次第指示書の中で「祝事はかたがたと騒音を立て激しく揺れながら進行するので、うまく調整するように」と記していた。

下谷警察署長がクレーム! 黒田清輝「裸体婦人像」で 「朝妝」に続く「風紀」大騒動

▲白馬会第6回展の会場。黒田清輝の「裸体婦人像」が下半身を布でおおわれて展示されている。

明治三十四年、一月一七日から、一月三日まで、東京・上野公園内にある内国勸業博覧会跡の第五号館で、白馬会第六回展が開かれた。ところが、同展に出品された、東京美術学校教授・黒田清輝（三十五）の「裸体婦人像」、ラファエル・コランの裸体画習作とオデオン座の天井画



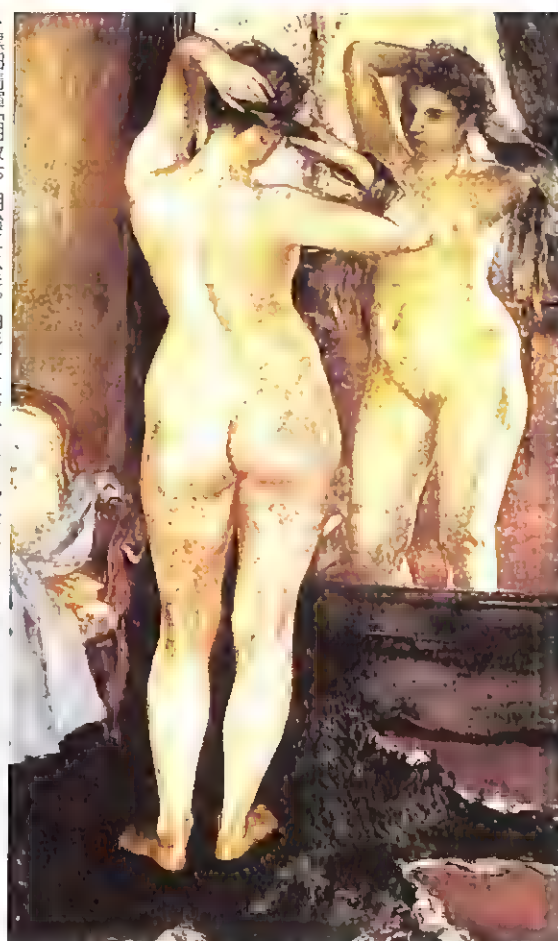
下絵などが、画面の一部を布でおおわれて展示されることとなった。公開前の、ちよつと作品の陳列が終わったところに、下谷警察署の古水署長の臨検があり、風紀上差しつかえがある作品は、局部を露出しないようにとの注意があった。署長と話し合った白馬会側は、紫色の布で像の下半身をおおって展示することにしたのである。このあたりの経緯を、一〇月二三日の「時事新報」は次のように記している。

「美術と云へる点より見れば全然出品を禁すべきにあらざれば、風俗取締の上よりして公衆の鑑賞を禁じ、美術奨励の点よりして別室に集めて斯道に關係あるもの、みに鑑賞を許さんと案議したる事あり、その後署長と白馬会との間に交渉したるに、黒田清輝の如きは熱心に一般公衆に縦覧せしめたと希望するより、多分警察は臨機処置を為したるものならん」

すでに黒田は明治八年にも、京都で開かれた第四回内国勸業博覧会に「朝妝」を出品し、同じような裸体画問題を起こしている。「朝妝」は、パリ留学時代にソシエテ・ナショナル・デ・ボザールの

サロンで人選した黒田の代表作である。関西の新聞各紙は、風紀上の問題の賛否から始まり、はては「裸体画は美術作品か否か」という議論まで巻き起こした。裸体画の必要性を信じていた黒田は、いささかも動じることなく、こうした物議を面白がり、友人の久米桂一郎にこう書き送った。

「世界普通のエスチックは勿論、日本の美術の将来に取って裸体画の悪いと云う事は決してない。悪いどころか必要な



▲黒田清輝「朝妝」。明治六年。油彩、一七八・五×九八センチ。フランス留学時代の集大成として描かれた作品。日本での展示にあたっては、黒田自身ある程度の批判を予想していたが、あえて出品することにより、日本の画壇の刷新をはかることを期待した。作品は、第二次世界大戦で焼失。

に、糸まとわぬ裸婦を描いた作品が、官の主催する啓蒙的な意味を持つ展覧会で公衆の面前に掲げられることが疑問視されたのである。こうした裸体画問題について東京国立文化財研究所の主任研究官

である山梨絵美子氏は、次のように語ってくれた。

「幕末に日本を訪れた外国人は、日本人が人前で肌をさらすことに無頓着である点に驚いています。欧米並みの文明国を

めざした明治維新政府は、明治五年に『違式註進条例』（現「軽犯罪法」）の前身ともいえる法を出し、これを禁止しました。以来、裸体を公然と見せることははばかれるようになったのです。これが

裸体画についても問題となったのですが、黒田は日本人の作品が国際的な美術の世界に出ていくには、裸体画の勉強は必要だという考えに立っていました」

「朝妝事件」から六年、取締り側の無理

解と頑迷さ加減はいもかわらないどころか強硬になり、第六回展では初めて警察が介入した。黒田はあきれながらも「報知新聞」で洋画における裸体画の意味を説くとともに、師・コランの作品を解説している



▲黒田清輝「裸体婦人像」。明治三十四年。油彩、一六二×八九センチ。文部省から美術に関する制度や教授法の調査研究を依頼され、二度目のヨーロッパ滞在中に制作。

「今度幕を張られたコラン氏は僕が七年間も就いた先生で、年は五十前後だが、巴里の博覧会などでは必ず審査官となる人だ。其画は仏国政府の注文によりオデオンでふ芝居の天井に掲げられた下絵で、図は技芸の旧時代去つて新時代の曙光を放つ意匠に成り、新時代の女神が名譽の花を左手に掲げ、其下に男性が後向になつて幕を明けて居るのであるが、女神の方は兎に角此男性の臀部に淫褻を張るとはチト注意が行届き過ぎたやうだ」(一月五日)

裸体画についての無理解はその後も続き、明治七年の白馬会第九回展では、青木繁の名作「海の幸」が女性や子どもは入ることのできない裸体画室に特別展示されたのである



▲白馬会第6回展広告。「明星」第17号(明治34年11月号)に掲載された。

「ヒーロー」の村井吉兵衛が「天狗」の岩谷松平が トップの座をめぐって東西巨頭が激突 明治の「タバコ大戦争」!



◀当時のタバコ小売店風景。この頃、岩谷商会や村井兄弟商会のほかにも、東京の千葉商店(看板の右端)などが、しのぎを削っていた。毎日新聞社

まだタバコが民営だった明治三〇年前後、関東と関西のタバコ王が激突した。世に言う「明治のタバコ戦争」である。かたや、奇抜な宣伝文句を次々に打ち出して、タバコ大王を自称した銀座の岩谷松平。かたや、京都から東京へ攻めのぼつてきた村井吉兵衛。いずれも市場の全国制覇をめざして華やかに、また激しい販売・宣伝合戦を展開した。

新聞全面を使って広告 やられたらやり返す!

明治三四年一月五日の「東京朝日新聞」に「広告 公衆各位の御参考の爲め弊社より岩谷商会主岩谷松平氏に宛送したる書状全文の写し左の通り広告致候也」と題した、ざっと二八〇〇字余の文章だけの全面広告が掲載された。

これは五日前の一月二〇日、村井兄弟商會が岩谷商会にこういう書状を送ったと訴えたもので、概要、次のような内容だった。

当時、村井兄弟商會寄りと噂され、しきりに岩谷商会、ならびに岩谷松平(五二)攻撃を繰り返していた新聞、「六新報」について「これらの記事が当社の教唆によるのか」と言われ、また、そ



▶江戸・小伝馬町の牢屋敷で行われていたという石抱きの拷問。石を積み上げていくたびに、苦痛はいや増していく。



▲江戸の捕りもの道具。凶悪犯を追い詰めてから捕らえる刺股(さすまた)などの道具だ。それぞれに突起物もあって鋭い武器のようだが、極力、体を傷つけない工夫がはどこされている。

明治大学刑事博物館の展示スペースでは、常設展として「道具で知る江戸の捕りもの・拷問・刑罰の世界」展が開かれている。十手など各種の捕りもの道具が展示されているほか、主として江戸・小伝馬町の牢屋敷の中で行われていた拷問・刑罰の様子が、実際に使われていた道具などが添付されており、層層と積み重ね、その分おそろしい展示となっている。

さて江戸の拷問は「鞭打ち」から始まって「石抱き」「海老責め」「吊るし責め」とエスカレートしていくが、比較的よく知られている「石抱き」が、想像してい

明治大学刑事博物館 東京・千代田区

20世紀博物館

桑原茂夫

▼ヨーロッパの代表的な拷問具「鉄の処女」。胴体内に埋めこまれた鉄の針はあまりにも長く、また鋭い。これでは、胴体を開められたらひとたまりもなかっただろう。



た以上にすさまじい拷問だったことを知った。まず座るところが、想像ではない。三角形の木材が並ぶ上(「算盤板」とは言い得て妙である)に正座する。これを、実物大で見せられると、苦痛が推しはかかれてゾッとする。しかもその腰の上に、重さ四〇〇kgはあろうかという重石が載せられるのだ。学芸員の伊能秀明さんによると、三、四枚重ねられると、血反吐を吐くほどの激痛に襲われるそうである。それだけおそろしく、より効果的な(一)拷問具だったわけだ。

それでもなお、求める情報が見られないうと、次は「海老責め」である。これは、体を不自然に折り曲げ固定することで血流をとどこおらせ苦痛を与えるという拷問で、その姿勢や、たちまち全身紅潮する様子、海老をゆでる時のイメージを重ねてこの名がつけられた。

身体をロープで縛って梁から吊るす「吊るし責め」も相当厳しい拷問で、呼吸困難をとまとう苦痛で責められる。

このような江戸の拷問具・拷問術のほかに、ここにはヨーロッパの有名な拷問具「鉄の処女」もおかれている。

「鉄の処女」は、外見は何の変哲もない鉄製の女性像だが、その胴体部分の内側に長い針が無数に埋めこまれており、こ



▲江戸の刑罰のうち、鋸で首に傷をつけておいてから、生き埋め状態で首をさす刑。たしかに、見せしめにはなっただろうが、このような刑を与えるものに対する反発も、呼び起こしたことだろう。

れが胴体部分に押しこめられた人を徐々に刺していくというものの、想像するだにおぞましい。

ほかにも、さらし首や火あぶり、ギロチンなど、いろいろな刑罰が展示されているが、拷問にせよ刑罰にせよ、人に耐えがたい苦痛や屈辱を与えることを追求してきた歴史は、「人権抑圧の歴史」(伊能さん)として、けっして闇に葬られるべきではないだろう。

そもそも、拷問具や刑罰具を展示に供していたヨーロッパの街角の光景に触発され、昭和四年に開設されたというこの博物館は、おそらくこの世になくはない博物館のひとつなのだ。

●明治大学刑事博物館

千代田区神田駿河台一丁目
電話〇三—三九六—四四三三
JR、地下鉄御茶ノ水駅、新御茶ノ水駅下車、徒歩五分
開館時間 平日は二〇時—二六時半
土曜日は一〇時—二二時半
休館日 日曜、祝、お盆、年末年始、夏期は土曜日も
入館料 無料



▲村井兄弟商会の代表的なタバコ、「ヒーロー」の広告。



▲明治43年、欧米観光のため、夫人と令嬢をとめない、自宅を出る村井吉兵衛(運転手の後部)。

金目せしめ減税
中界世
HERO
CIGARETTES
MURRAY
HERO
FOIL
價定
厘五錢三

▲東京銀座の岩谷商會の広告「勿驚(おどろく)なけれ煙草税金(三三)の広告が人々の注目を集めた。

▲明治43年、欧米観光のため、夫人と令嬢をとめない、自宅を出る村井吉兵衛(運転手の後部)。



たれた旧家に生まれた。明治一〇年、西南戦争の兵火にあつたため上京し、銀座三丁目目録、タバコなどの店を開いたが、明治一七年、口つき紙巻タバコの元祖と称する「天狗印煙草」を製造、販売に乗り出した。銘柄は二〇本で三錢の「岩谷天狗」、同四錢の「愛国天狗」、五〇本で一〇錢の「大天狗」などである。岩谷松平はとにかく赤が好きで、本店を朱で塗りつぶし、朱色の装束の宣伝隊を引き連れて自転車や馬車で街中を走りまわった。「日本煙草大王」「世界煙草大王」とみずから名乗ったりもした。

程されたが、その前月の二月一〇日、日露戦争に突入しており、軍費調達に急がれ同年七月一日から施行となった。この時、次のような報告が提出されている。

のことを信じてか、当社に対する敵意をあらわにした広告文を多くの新聞に出されている。村井兄弟商會は一連の記事と何ら関係はない」といったことが延々と記されている。

▲「ピンヘッド」と「サボーク」、いずれも村井兄弟商會のタバコ。同商會のタバコは多色刷りです。

「大企業がまだ、あまりなかった当時、タバコはすばぬけた高収益産業でした。だから、よりよいパッケージを作るため、自前の印刷工場まで持つことができたのです。そして激しく競いあつた結果、広告・宣伝のレベルアップを生み、その後日本の文化に大きく貢献することになったのです」

▲岩谷商會の「輸入退治天狗」。

博覧会場には大広告塔自転車宣伝隊は朱一色



▲村井吉兵衛の別邸だった長樂館。京都の円山公園にあり、現在は公開されている。



▲森島龍、自転車通勤
(8月)千葉県第1号の
自転車を買ってもらい、
家業である勝浦のヨー
ド工場にかよった。電
気化学工業を軸とす
る、後の新興財閥・森
コンツェルン総帥の修
業時代だった。

▶銀座に自動車販売店
が登場(8月)松井民次
郎が「モーター商会」
を設立し、翌月、米国
から輸入した、オリエ
ント、オールズモビル、
デュリエを陳列、市民
を驚かせた。写真は、
明治36年の社屋。



佐々木邦「明治の輸入車」 日刊自動車新聞社提供

▶最後の琉球国王死去(8月19
日)第2尚氏19代・尚泰、58歳。
首里城に生まれ4歳で王位継承、
島津藩への服属、維新政府下の
藩王と激動を生き、明治18年侯
爵。以降、東京に住んだ。

▼京釜鉄道ようやく着工(8月20
日)京仁鉄道と接続する北端、
永登浦で起工式を挙行。南端の
釜山では翌日起工した。朝鮮民
衆の抵抗や資金難などで、完成
は大幅に遅れた。



「太平洋」



「太陽」

毎日新聞社

▼「インディアン」隔離政策(8月9日)米政
府は、新たにテキサス州北部の居住区も白
人に開放。原住民は指定地へと追われた。
写真はオクラホマ準州居留地で。



▲正木直彦、東京美術学校
長に就任(8月9日)昭和7年
まで32年間も勤続。後、
帝国美術院長にもなり、日
本の美術行政・教育にはた
した役割は大きい。



CORBIS-BETTMANN PPS



▲ホームズ復活(8月)英月刊誌
「ストランド・マガジン」が、ド
イルの新作「バスカヴィル家の
犬」を連載。10年前、滝壺に落ち
たはずの名探偵が再登場した。

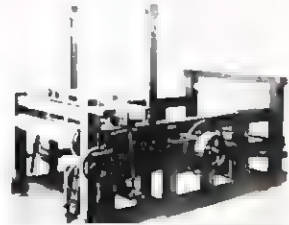
▼フィリピン初代総督にタフト
(7月4日)革命軍を制圧した米
国は、占領体制を改め軍政から
民政に移行した。写真は、植民
地政府高官と談笑するタフト。



交通新聞社提供



▼鶴岡の発明家・斎藤外史の力
織機、好調(7月)輸出用羽二重
専用機。性能がよいうえ、輸入
機の10分の1という安さで、大
正9年までに1万台を製造した。



「目で見る鶴岡百年」

▶ロンドン暮らしの夏目漱
石(7月20日)前年9月、文
部省の命で英語研究のため
留学。学費不足と孤独感か
ら、強度の神経衰弱に。写
真はロンドンでの下宿。



上田信夫提供

▼民間初の蒸気機関車製造
(7月)明治29年に、日本最
初の鉄道車輛製造会社とし
て大阪に設立された汽車製
造会社が、英国製181タン
ク機をもとに、2年がかり
で形式230を完成した。

- 明治34年8月
- 1(木)中央線の八王子・上野原間が開業。
 - 2(金)陸軍が在米の連合軍から軍馬購入と新聞に。
 - 3(土)米海軍、野牛の保護区を設けると声明。
 - 4(日)酷暑で水一買目六銭が一五銭に高騰。
 - 5(月)東京市の「七月の火災」は「八」件と新聞に。
 - 6(火)感化法施行規則公布。在院者教育など規定。
 - 7(水)東京、横浜と鎌倉、大磯間に電話開通。
 - 8(木)各地の銀行破綻で郵便貯金が増加、と新聞に。
 - 9(金)米国、テキサス州北部の原住民居住区が白人に開放される。
 - 10(土)東京市、捕らえたネズミ一匹ごとに交換した抽選券の第1回抽選会実施。一等賞金五万円。
 - 11(日)米で鉄鋼労働者が賃上げ要求し、ストに突入。
 - 12(月)日本郵船横濱支店の荷揚げ労働者が、賃上げを要求してストライキ。
 - 13(火)日本郵船横濱支店の荷揚げ労働者が、賃上げを要求してストライキ。
 - 14(水)ライト兄弟設計、バイス「プロ」製作のエンジンつき無人機が初飛行。九〇分飛行。
 - 15(木)鳳(与謝野)「電子」歌集「みたれ髪」刊行。英政府、ポリア人に降伏要求。
 - 16(金)千葉県勝浦で漁民が漁場争い、負傷者多数。消火に打つ手なし。
 - 17(土)東京の日本石油倉庫で火災。放水は効果なく。
 - 18(日)米使署、全国一の米穀取引所が売買停止。
 - 19(月)最後の琉球国王、尚泰が、東京で死去。
 - 20(火)韓国、永登浦で、京釜鉄道起工式。
 - 21(水)第一インター系労組代表、コペンハーゲンで、無政府主義の締め出しはかかる国際会議を開催。
 - 22(木)「時事新報」で、五万円以上の資産家「全国四一人」の氏名を掲載。
 - 23(金)奥羽南線、山形、樺岡間延長開業。
 - 24(土)東京の労組有志が労働者懇話会を開催。普請選挙実施。工業条例制定運動の実施を主張。
 - 25(日)島崎藤村、詩集「蒼梅集」を刊行。
 - 26(月)ハルカンの諸国の新聞各紙、ロシアの対外政策に不安を表明。
 - 27(火)警視庁の囚人移送馬車が小児を轢き死ね、d。
 - 28(水)石川島造船所初の大船、交納、か海軍。
 - 29(木)清国が科挙制度を改革。四書五経の古典教養を試験科目に八股文を廃止する。
 - 30(金)官憲知事の日録は、から四。
 - 31(土)今年度新作を畑作半作作とする四。

- 明治34年7月
- 1(月)日本広告会社、電報通信社創立(電通の前身)。
 - 2(火)清国北部で日本製タバコの需要増大と新聞に。
 - 3(水)海軍、台湾、澎湖島の馬公を要港に指定。
 - 4(木)前年の婚姻は約三万組、と新聞に。
 - 5(金)東京市、小学校の夏休み一日を四、日に。
 - 6(土)外務省、移民会社が同業会を組織して過剰競争を抑制するため、ハワイ移民禁止を解除。
 - 7(日)横浜の瓦斯局が施設拡張。供給量が四倍に。
 - 8(月)仏で、自動車の市街地速度を「一」に制限。
 - 9(火)社会政策委員会、社会民主党の禁止に關し、学会は社会主義とは違うと強調。
 - 10(水)日本郵船、外国航路に初めて邦人船長を採用。
 - 11(木)貴族院議長、近衛篤彦、清国、韓国視察に出発。
 - 12(金)スト中のカナダの鮮魚漁船員が、ストに参加しない日本人漁船員を孤島に監禁。
 - 13(土)「ラジカル」人がパリで、飛行船による「一」区間往復飛行に挑戦。墜落して失敗。
 - 14(日)神奈川、早稲田で、ペリー上陸記念碑除幕式。
 - 15(月)高峰譲吉、米でアドレナリン抽出の特許取得。
 - 16(火)警視庁、店頭で買えない食料品に罰則。
 - 17(水)警視庁、雑誌「黒龍」の星亨修政事件記事を、秩序紊乱、被告人救済のことで告発。
 - 18(木)横浜の私設保稅倉庫が認知され好評と新聞に。
 - 19(金)東京、大森海水浴場で男女淫褻禁止と新聞に。
 - 20(土)黒岩源吉ら「万朝報」を軸に「理想団」を結成。現実社会を理想社会に近づけることをめざす。
 - 21(日)米国のフィッツモリス、新聞社の企画で世界早まわりに挑戦。八、日二時間余を記録。
 - 22(月)陸軍兵器廠、軍器として仏製自動車を購入。通信隊の野戦電信機架設作業に使用する。
 - 23(火)警視庁、商品や広告に、「警視庁試験済み」「認可済み」などと表記することを禁止。
 - 24(水)清国、改革の一環として外務部を設置。
 - 25(木)幼稚園唱歌「行、鳩、鳩、お正月」など収載。
 - 26(金)巡査看守退避料及び遺族扶助料法、を制定。
 - 27(土)貿易調査会、「義和団事件」の賠償金で日清貿易の機関銀行として日清銀行設立を建議。
 - 28(日)前年創立の案譜著作権会社が解散、と新聞に。
 - 29(月)七月現在の華族は七七八八、と新聞に。
 - 30(火)日本鉄道、上野、平岡海岸線間遊車券発売。
 - 31(水)「義和団事件」以来北京に駐留していた連合国軍隊が撤退開始。



▲「北海タイムス」創刊(9月3日)北海道の有力紙、北海道毎日新聞・北門新報・北海時事が政友会支持で一体化。写真前列左から二人目が後の社長・阿部宇之八。昭和17年、戦時統合により北海道新聞となった。

▼北京議定書調印(9月7日)「義和団事件」に関して、日・露・独など11カ国が賠償請求。清は多額の支払いと外国軍隊駐留を承認した。

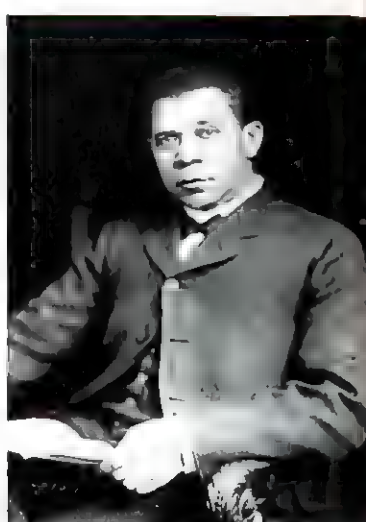


▲ロンドンの戦艦「三笠」回航員(9月)「三笠」は英・ピッカース社で明治32年に進水、艦装工事中だった。竣工は35年3月。写真はロンドンに派遣され、水晶宮で休日を楽しむ回航要員。

▲アフリカのアシャンティ王国滅亡(9月26日)金・奴隷貿易を求める欧州列強に抗し17世紀末からガーナの森林地帯を支配したが、ついに英国の軍門に降った。中央が国王。

▶日本女子大が第1回運動会(10月22日)創立委員・渋沢栄一の別邸、東京・王子の飛鳥山庭園で開催。同大は4月、成瀬仁蔵が小石川に開校、二百余人が在学していた。

▶トルストイの訪問客(9月12日)ロシアのクリミヤで保衛中の大先輩を、結婚したばかりのチェーホフ(左)が訪ねた。二人は互いの作品の愛読者で、辛辣な批評家同士だった。

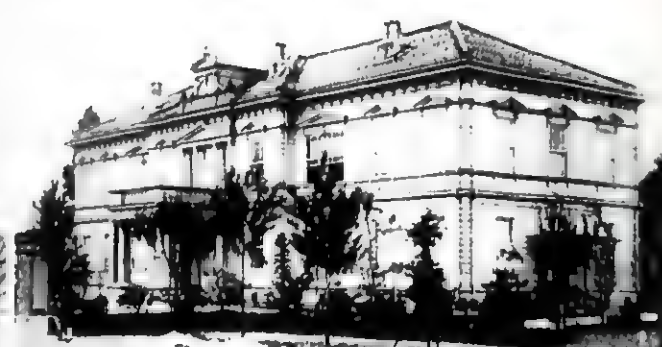


▲ホワイトハウスの晩餐会に黒人出席(10月16日)黒人指導者、ブッカー・ワシントン(45)を、ルーズベルト大統領が招待。南部白人社会を激怒させた。



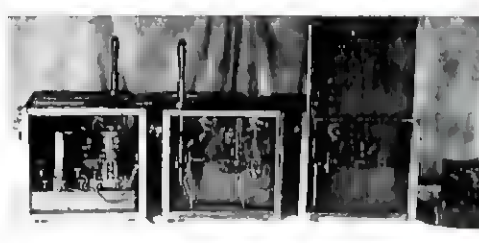
▼台湾神社完成(10月27日)明治28年の領有の際、戦病死した近衛師団長・北白川宮能久を祀るため、台北郊外に建築。官幣大社とされ、台湾民衆皇民化政策の象徴となった。

▲熊本・貧児寮の「卒業式」(10月13日)この頃、孤児の救済は篤志家の手にゆだねられていた。経営は苦しく、食物に困ると孤児を引き連れ残飯をあさることもあった。



▲舞鶴鎮守府開庁(10月1日)日本海防備のため設置。横須賀、呉、佐世保に次ぐ4番目の鎮守府で、軍港都市・舞鶴の幕開けだった。写真は初代長官・東郷平八郎(54)と官邸。

▶初の国産無線機(10月18日)マルコーニに刺激され海軍が開発に成功、「34式」と名づけた。艦船間の通信距離約74キロ。写真は明治36年、「信濃丸」に装備された改良型。



明治34年9月

- 1日 東京・上野で第一回全国茶業品共進会開催
- 2日 ルーズベルト米大統領が乗艦される(14日死亡。ルーズベルト大統領が乗艦)
- 3日 札幌で「北海タイムス」創刊
- 4日 蔵相・銀行設立に際し、資本金50万円以下は認めない方針を地方官に指示
- 5日 第一銀行、韓国大蔵省と、租税担保の50万円貸付契約に調印
- 6日 「義和団事件」の清国謝罪使一行が東京着
- 7日 北京で「義和団事件」に関する最終議定書調印。清国、一カ国に華北への駐兵権を承認
- 8日 農商務省、米国より種牡馬一八頭を購入
- 9日 東京市、水道工事ローソンの期間を、一律二四カ月から、工費に応じて六二四カ月に変更
- 10日 大日本労働団体連合本部結成。片山潜は労資協調路線に反対し、早くも二日に脱退
- 11日 山梨県農工銀行信託協会の犯人が自首
- 12日 東洋雄弁会が発会式。政党内閣を倒す、世論の原動力となることをめざす
- 13日 長崎で、英米脱走水兵に領事館へ、八人の賠償金
- 14日 対清貿易復讐見こし、横浜市場況と新聞に
- 15日 外国駐留警察総数は一八、二六件、と新聞に
- 16日 青梅線、置き石により機関車が脱線転覆
- 17日 横須賀遊廓に裸出した水兵がとらえられ、懲罰化、憲兵隊が出勤
- 18日 時事新報、増玉皇の女工虐待事件を報道、後、女工虐待への関与を暴露
- 19日 横須賀貯蓄銀行、資本金過半で設立不許可
- 20日 東京警視庁で、尾崎山崎事件の八人開始
- 21日 前野公使、小村外相を外相に任命
- 22日 東京振友会、密輸防止に狩猟法施行を決議
- 23日 製麻会社四社、蚊帳糸の合同販賣協定を締結
- 24日 日清、重慶の日本専管居留地取り決めに調印
- 25日 佐世保の女医、清の日文学校に招聘される
- 26日 アフリカのアシャンティ王国、英のゴールドコースト植民地に統合される
- 27日 北海道鉄道鉄道有志により北海工学校が開校
- 28日 仏東洋艦隊司令官・ボチエ中将が表敬参内
- 29日 日本郵船横浜―上海航路が一泊短縮と新聞に
- 30日 仏で、時速二〇以上の乗りものに車両番号

明治34年10月

- 1日 海軍、舞鶴鎮守府を開庁
- 2日 秋物の絹織物は前年の二割安、と新聞に
- 3日 警視庁、射撃心をあおる電報類似行為を禁止
- 4日 八月一日開業の中央線八王子駅構内販賣の競争入札は六〇一円余で落札、と新聞に
- 5日 清国、中国東北部の、路車撤退交渉を開始
- 6日 清国、西太后の名で国政改革の上諭を発表
- 7日 九州で暴風雨、被害甚大、長崎県五島沖では、観測所が沈没し、四人死亡
- 8日 上武鉄道(現秩父鉄道)の熊谷、寄居間開業
- 9日 横須賀停泊中の英米軍艦から水兵一八人脱走
- 10日 清国、七月に、性病の水兵一八人と新聞に
- 11日 清国、勅令で「先官」を禁止
- 12日 横須賀公園クリケット倶楽部運動場で、横浜と神戸の外国人が野球大会、入場料一円
- 13日 横須賀で腸胃病流行、と新聞に
- 14日 ロシア各地で、飢えに苦しむ民衆が蜂起
- 15日 北海道鉄道遠成同盟が、大蔵省に省管に請願
- 16日 本年の大蔵省の破産申請、すでに一九件
- 17日 林義典公使、英外相と口頭交渉交渉に入る
- 18日 内務省、サッカリンなどの人工甘味料の製造を禁止
- 19日 黒田清輝が白馬会展に、裸体婦人像一を出品
- 20日 警察は風俗を乱すとして下着を布くおかわせる
- 21日 東京・深川で河竹黙阿弥の「弁天小僧」が無断上演され、版權問題起る
- 22日 大日本武徳会、上野で山岡鉄舟追悼武術大会
- 23日 小村外相が各国公使に、永代借地上の家屋への課税徴収を猶予しないと通告
- 24日 メキシコで第二回パン・アメリカン会議、紛争を平和的に解決すること合意
- 25日 田中工部、足尾銅毒事件に抗議して議員辞職
- 26日 テキサス州のテイラー夫人、女性として初めて、ナイアカラ滝を横切る冒険に成功
- 27日 金、大蔵院、慣習としての根拠を有効と指示
- 28日 横須賀、東海通商銀行の食堂車運賃を一七〇円で落札
- 29日 松本市で労働者大懇親会と普通労働者大会開催
- 30日 台湾で、台湾神社鎮座式挙行
- 31日 甲武鉄道、年割四分五厘の配当決定
- 32日 神戸フィッシングカンパニー、姫路・タマ川に漁船
- 33日 国学院が後援部を設ける、と新聞に



◀岡倉天心、インドへ出発(11月21日)翌年10月まで滞在。3年前に東京美術学校校長を追われて以来、目を海外へ向け、日本の伝統文化の再評価に興味を移した。
▲東海道線に食堂車登場(12月15日)新橋―神戸間急行に連結、洋食のみ提供。官営鉄道では初めてだった。3等客は利用できず、急勾配の区間は連結しなかった。

▶初の自動車レース(11月3日)東京・上野の不忍池畔で行われた、大日本双輪倶楽部主催の自転車競走会余興に、ブルウル兄弟商會が協力。4輪車、3輪車、2輪車自動車が登場。



「太陽」



「太陽」



▲宮城県で陸軍大演習(11月6日)南・北に分かれ、仙台の北方、築館・高清水間を戦場にして両軍が実戦ながらの訓練。8・9日には愛馬「友鶴」に騎乗した天皇が統監した。写真は最終日の接近戦。



毎日新聞社

◀八幡製鉄所、にぎやかに開業祝う(11月18日)春の溶鉱炉火入れに続き、転炉も作業開始、鋼生産を開始した。この日、大相撲興行・軍楽隊演奏など華やかな祝典を挙げる。

▶太平洋画会結成(11月21日)浅井忠らの門下生・吉田博(中央)が、明治美術会を解散して組織。黒田清輝らの白馬会に対抗し、色彩より形態を重視する画風を特徴とした。



CORBIS-BETTANN

▲マルコーニ、大西洋横断無線通信に成功(12月12日)イングランドのポルデューから「S」の文字を打電、カナダのニューファンドランド島で受信した。

食パン製造及配達
菓子パン、餅、小食
ベーコン、ソーセージ、肉類、魚類、惣菜、漬物、乾物、調味料、飲料、衛生用品、洗剤、化粧品、玩具、文房具、雑貨、その他、何でもござれ。
中村屋 相馬 眞 中村屋



中村屋提供

◀▲中村屋、東京・本郷に開店(12月30日)相馬愛蔵、黒光夫妻が、パン・菓子の製造・販売をしつつ、バターなど西洋食品の普及につとめた。後の新宿中村屋である。

証言・あの日この日 福田英子(35)



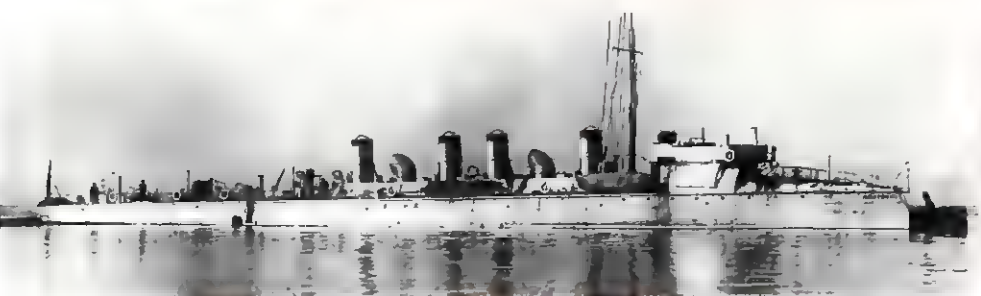
11月3日(日) 〈さらば今一度元気を鼓舞して、三児を健全に養育してこそ妾の責任も全く、良人の愛に酬ゆるの道も立てと、自ら大いに悔悟して、女々しかりし心恥かしく、ひたすらに身の健康を祈りて、療養怠りなかりしに、やがて元氣も旧に服し、浮世の荒浪に泳ぎ出づるとも、決して溺れざるべしとの覚悟さへ生じければ、亡夫が一周年の忌明けを以て自他相輔くるの策を講じ、ここに再び活動を開始せり) (福田英子『妾の半生涯』)

明治自由民権運動の婦人闘士・福田英子(35)は、夫・福田友作の死後、子ども三人を抱えて苦悶懊悩のあまり、神経衰弱にかかり、病臥する日々を送っていた。しかし〈妾は常に戦へり〉とみずから言うように、負けず嫌いの英子は、夫の一周忌にあたって、この日、角筈女子工芸学校の設立を宣言する。(山崎行太郎)



◀山本五十六、海軍兵学校入学(12月)新潟の長岡中学卒業後、合格、江田島に向かった。入学成績は200人中2番。卒業とともに日本海海戦に参加、砲弾を受け重傷を負った。

▼駆逐艦「暁」完成(12月14日)この頃、日本海軍はイギリスの造船所に次々と新型艦を発注していた。「暁」もその1隻で、日露戦争には高速性能を生かして重用された。



同市企業部海軍博物館提供

- 明治34年12月
- 1(日)郵便切手を、五厘・一銭・二銭に限定。
 - 2(月)米のブレンドが替え式安全電灯の特許申請。
 - 3(火)ルイス・ヘルトム大佐、神戶支隊防止のため、大正軍の合併規程を提議する(発表)。
 - 4(水)清国の機織需要増で、福本価格高騰と新聞に。
 - 5(木)内務省と文部省の協議で、従来禁止されていた神職、僧侶の小学校教員兼務を許可。
 - 6(金)衆議院書院、蔵書万二〇一四冊でスタート。
 - 7(土)虎尾義孝の「クレーン」が、横濱の外、チームと初の優勝試合、五対二で勝つ。
 - 8(日)歳暮用借越折込は一五銭から一円と新聞に。
 - 9(月)米国で、一人一組の六日間耐久自転車レース、優勝チームは四〇八分を走破。
 - 10(火)田中正造、足尾銅毒事件で天皇に直訴。第二回ノール電報機式。
 - 11(水)兵庫県の焼酎工場で火災、女三人焼死。
 - 12(木)伊のマルコーニ、大西洋横断無線通信に成功。
 - 13(金)中江兆民、没。宗教色脱し、「告別式」のみ行う(「告別式」の名称が初めて使われる)。
 - 14(土)設立を認可された日本興業銀行が定款を発表。
 - 15(日)韓国で、白銅貨幣と民間の私鑄銭により貨幣価値が暴落、と新聞に。
 - 16(月)農商務省、園芸試験場の新設を決定、と新聞に。果樹・野菜の品種改良、栽培普及をめざす。
 - 17(火)浅草公園の年の市、不景気にさわれなし。
 - 18(水)大隈、同僚倶楽部ホテルが全焼。
 - 19(木)英、独、同盟結成交渉を中止。
 - 20(金)東京、本郷の中央公会堂で、足尾銅毒救助演説会、東大生・河上徹が感動して着衣をカンパ。
 - 21(土)ノルウェーの市町村道で、女性が初めて投票。
 - 22(日)東京上野駅で、赤帽に化けた置き引きを逮捕。
 - 23(月)長崎県香焼炭坑で、賃金問題から坑夫三〇〇人参加の暴動、一人死亡、六人重傷。
 - 24(火)英が移民制限法を実施し、有色人種を排斥。
 - 25(水)内務省、ベトナム取返規則を公布。
 - 26(木)英が建設中だったガタ鉄道、モンパサー・ピクトリア湖で開通。
 - 27(金)東京、数寄屋敷の田村貞三が、大正画した字の定評を得る(発表)。
 - 28(土)日本最大、一八〇〇の木造船が進水。
 - 29(日)東京、越中島に、農商務省工業試験場が落成。
 - 30(月)北越鉄道、大雪のため長岡、直江津間が不通。
 - 31(火)年末の兌換券発行高は、約億二〇〇〇万円。

- 明治34年11月
- 1(金)秋田県能代港で火災、住宅など一六棟焼失。
 - 2(土)国民一人当たりの米消費量は七斗余、と新聞に。
 - 3(日)ハワイに在留日本人会設立。
 - 4(月)独でワンダーフォーゲル運動が始まる。
 - 5(火)政府、第一銀行に韓国での銀行券独自の発行を認可。
 - 6(水)宮城県で陸軍大演習始まる(11日)。
 - 7(木)日本國家会創立。
 - 8(金)不景気で日本酒生産が二五割減、と新聞に。
 - 9(土)東京・上野で二時間長距離競走が行われる。
 - 10(日)高松・岡山間連絡船が衝突沈没、二人死亡。
 - 11(月)台湾総督府民政部に、警察本署と総務財務通信・殖産・土木の五局を設置、民政に本腰。
 - 12(火)八幡製鉄所、第一転炉に火入れ。
 - 13(水)東京で玉川砂利電気鉄道敷設計画と新聞に。愛知県警が、名古屋の九人殺害犯発見者に一〇〇円、逮捕協力者に二〇〇円の懸賞。
 - 14(木)北海道釧路で火災、三三〇戸焼失。イタリアで、農業労働者総連合設立。
 - 15(金)東京のゴミは、焼却場開設まで削減、と新聞に。地に埋却する計画、と新聞に。
 - 16(土)米国で一瞬自動車レース、優勝は五秒八。第一回メキシコ移民八二人が横濱を出航。
 - 17(日)横浜オリエンタルホテルが、もう一回で全焼。
 - 18(月)米国、運河の自由平等航行権を保障する条件で、パナマ運河の建設と管理の独占権を獲得。
 - 19(火)新潟産石油が売り出され、出定好調と新聞に。
 - 20(水)全国農工銀行大会、貸付資金不足から、割増金つき農工債の発行を決議(不許可)。
 - 21(木)岡倉天心、インド巡歴のため神戸を起航。明治美術会の中堅が、太平洋画会を結成。
 - 22(金)新任の清国公使・蔡鈞が横濱着。
 - 23(土)陸軍が、軍人遺族扶助料増加を提議と新聞に。
 - 24(日)台湾で、不作に悩む現地住民が郵便局などを襲撃、一〇人を殺害し金品を強奪。
 - 25(月)福島警察署、労働者団体・日鉄矯正会福島支部に解散命令。
 - 26(火)新潟各相場が五年来の安値、大森産大判一〇〇枚が、一四三〇銭、一四五〇銭。
 - 27(水)米陸軍、陸軍大学校の設立を発表。
 - 28(木)人力車夫が足尾銅毒事件で天皇に直訴。月10日、黙殺され襲撃準備、警察が阻止。
 - 29(金)不景気で、横浜港は船の姿ない日と、新聞に。
 - 30(土)近年、女学生にえび茶の持が流行、と新聞に。

儀樂多市

流行語

星は死して流行語残す

「押し通る」。六月に暗殺された政治家の星亨は、その図々しさや押し通る強さから、政界で「押し通る」と呼ばれていた。このことが一般に広がって、図々しい男のことを「押し通る」とか、ずばり「星亨」と呼んだ。

「美的生活」。文芸評論家の高山樗牛が雑誌「太陽」八月号に「美的生活を論ずる」を発表、金銭にこだわるにしろ、知識や芸術を愛するにしろ、自分の世界に没頭することが大事だと主張した。これがきっかけで、「美的生活」という言葉が流行した。ただし学生の間では、金がなくて、下宿にじっと引っこんでいることをさす場合が多かった。

「鳩ぽっぽ」。芸者の間で、子どもっぽいことや、色気にとぼしい女性のこと。七月「幼稚園唱歌」が発行され、その中の「鳩ぽっぽ」(鳩ぽっぽ、ポッポポッポと飛んでいこう)や「お正月」(もういくつ寝るとお正月)などが人気を呼んだ。それから派生したもので、たんに「ポッポ」とも言った。

流行

半年で三〇〇人も成田山は断食のメッカ

【千葉発】成田不動尊(成田山新勝寺)は関東屈指の霊場であるが、江戸時代の名僧・祐上人が断食して祈願したという故事にならい、同寺に参籠して断食祈願する善男善女その数を増やして、明治の世となっても、この祈願を行うものが後を絶たない。

明治三十四年七月から八月まで

CM100年



胃病に胃活 泣く児に乳 胃活(津村順天堂現・ツムラ)

胃病に胃活 泣く児に乳

胃活(津村順天堂現・ツムラ)

三面記事

蜘蛛の落ちる姿で金儲け

山口県下には吉兆を表す俗語がたくさん伝えられていて、ほかの地方ではあまり聞かれないものも少なくない。それらを拾い出したところ次のようなものがそろった。



「蜘蛛が丸くなって落ちるのを見れば金儲けができる」

「鯛の目玉を○○○個集めれば幸福間違いなし」

「うだが、瀬戸内海は鯛の本場、その気になればさほどではない」

「外出する時、鍋裏を持って出れば怪我せぬ」

「鳥居の上に石を投げてとまれれば縁に恵まれる」

「新しい履き物を夕方おろせば悪魔に襲われる」

この悪魔は親を襲わないので、夕方おろす時は、親にちよつと足を通してもらえば大丈夫であると

風俗

芸者と一晚五〇円 浅草の待合裏事情

最近の調査によれば、浅草公園に「御待合」の看板を掲げているものが五八軒ある。これにも甲乙の派があつて、甲派は銘酒屋、芸会所、矢場などを根拠とする白首(密澤光輝)が客を連れこむところ。素人婦人の密会にも大いに利用され、中には賭博宿を兼ねているという待合もある。これが合計で……軒

乙派に属する三五軒は公園芸妓を相手とし、布団・組ぐらいを備え、座敷に飾りつけなどして、客があれば女将が腕によりをかけて

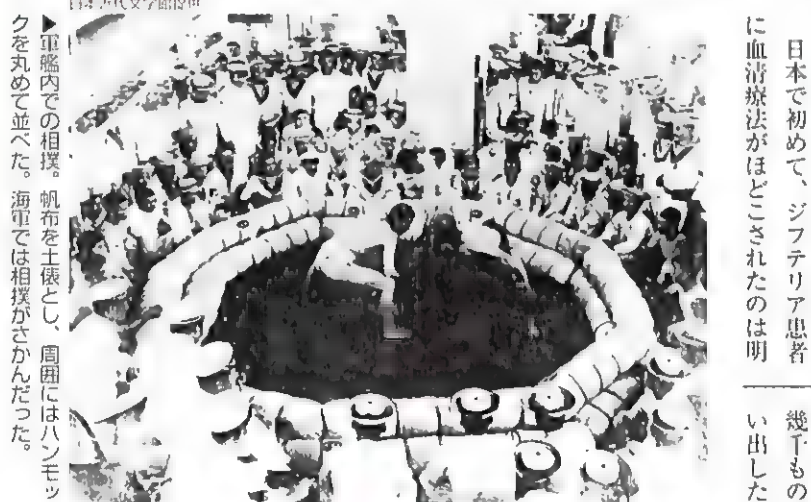
の半年間の断食祈願者を調べてみると、男子二六五人、女子三四人の合計二九九人にものほつている。その断食日数は、長いものでは、三週間にもおよぶものが七人、二週間のもの九〇人、一週間のもの一四六人、そして、番短いの泊二夜の祈願者が三六人という内訳である。

また祈願の目的は人によつてさまざまであるが、男子の場合、自分の病氣平癒を祈るものが最も多い。これに比して女子の場合には、わが子の病氣平癒を祈願するものが一位を占めていることである。

【報知新聞】一月二〇日

動物

北里柴三郎の血清療法 救世主となった第一号綿羊



日本で初めて、ジフテリア患者に血清療法がほどこされたのは明治三十四年七月、数頭の綿羊を買い入れ、翌月より何度か何度かジフテリア菌を注射して実験を行った。その間にほかの綿羊は発熱、衰弱して倒れたものの、頭だけは生き残り、人類に注射して免疫にたるとの血清を得られたにいたつた。

この綿羊は「第一号」と名づけられ、三・年までに二万五、〇〇〇の血清を供給して、幾千もの日本人を九死の間から救い出した。三・年には「第一救世号」と命名され、楽隠居風に世を送らせることになった。「第一救世号」が死んだのは明治三十四年十月であつた。

【石井研堂「明治事物起原」】

子ども

おんぶで歌の稽古 京都の子守り学校

わたし、京都の川岡村(現・京都市西京区)で生まれましたが、八つの時から弟の守りばかりしてました。子守りは長い時間つせ。



田口米作画「ストライキ病士」 一月一日の「団圓珍聞」に掲載された。この年、司法官の増修予算削減に對して全国的に反対運動が起り、二月二五日には東京地裁区裁の判検事二人が辞表を提出する騒ぎとなつた。

朝負わされたら昼まで、昼、乳飲まして負わされたら晩までとすな、おしめ替えは八つでは無理だから、ようかえへん、そのままですワええ、弟のお尻がたれてきたりするともありますな。そしたら学校の鈴木先生が、ええ歌教えるさ、上曜の三時から学校へおいでって……ほんで行つたら、子守りが、〇人も、〇人も来てますね、子を負うて講堂をまわりながら、

「向こうを通るは兵隊さんよ、あれは御国を守る人」や、

「こは川島冷声院よ、孝子儀平の墓がある」など、いろいろと歌を教えてくはりました。

【藤本浩之輔「聞き書き・明治の子ども」遊びと暮らし】

で、機関士は腹に晒しを巻いて乗務した。

このようなサービスを行ったのは、瀬戸内海航路の船と激しい客の奪い合いをしていたためである。これをまねて官鉄でも、この年、二月から食堂車を導入することになった。

【山陽新聞「昭和五十九年九月三日」】

この年の初もの

東京・日比谷大神宮で 神前結婚式スタート

●赤い郵便ポスト 鋳鉄製で供合式と呼ばれた。

●浸漬船 イギリスに発注の「椿号」が横浜に人港。

●電気掃除機 イギリスの技師、H・プースが実用的な電気掃除機を考案。彼は橋梁の建築家で、同時に自転車設計家でもあつた。

●年金制度 アメリカのカネギ・鉄鋼会社が、社員の老後のために採用。

はやり歌



荒城の月 作詞 土井勝郎 作曲 舟橋和郎

春城の花の宴 めぐる盃かげさして 千代の松が枝わけいでし むかしの光いまいず

秋陣営の霜の色

鳴きゆく雁の数見せて 植つるつるきに照りそいし むかしの光いまいず

いま荒城の夜半の月 替らぬ光たがためぞ 垣に残るはただの 松に歌うはただの風

天上影は替らねど 榮枯は移る世の姿 写さんとしてかきもなお 嗚呼荒城の夜半の月

はなさかじい

うらははたけで ぼちがなく しょうじきいさん ぼつたれば



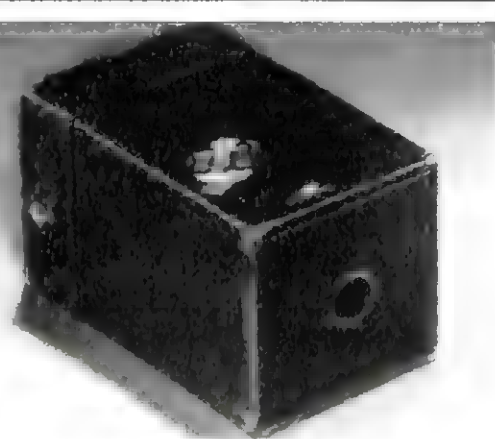
唱歌車 作詞 土井勝郎 作曲 舟橋和郎

おおはこん ぼんが ザク／＼ ザク／＼ いじわるじいさん ぼちかりて うらははたけを ぼつたれば かわつや かいがら ガラ／＼ ガラ／＼ しょうじきいさん うすはつて それでもちを ついたれば ままろ(こ)んが ザク／＼ ザク／＼

交通

船の客を奪え! 山陽鉄道の大サービス

山陽鉄道は明治三十四年、兵庫・明石間が開通、三十四年五月に馬関(現・下関)まで延び、全線が開通した。特筆すべきことは全国に先駆けて特急や急行を運転、寝台車や食堂車、それに列車ボーイや赤帽などを最初に設けたことである。特急は神戸・馬関を、一時間余りで走つたが、これは当時では驚異的な速さで、あまり揺れるの



〇月四日 イー・イー・イー「ダンク」社が「ダンクカメラ」を発表

物理学賞にレントゲン、平和賞にデュナンなど 5部門6人に23金の金メダルと賞状 第1回ノーベル賞授賞式!



▲最高の名誉とされるノーベル賞のメダル。直径6.5センチで23金。①ノーベルの横顔が刻まれた各賞(平和賞をのぞく)の表。②物理学賞と化学賞の裏。③生理学・医学賞の裏。④文学賞の表。⑤平和賞の裏。⑥平和賞の表。

▶第1回ノーベル賞授賞式の光景。破格の賞金額、世界最初の国際賞のため、ノーベル賞は、まもなく権威ある賞として国際的に認められるようになる。



一九〇一年二月一〇日、ノーベル賞の第一回授賞式が、スウェーデン・ストックホルムの王立音楽アカデミー大ホールで行われた。国王・オスカー二世が、授賞式への出席を拒否したとはいえ、「世界平和と科学の進歩」を願ったアルフレッド・ノーベルの遺言を二〇世紀に伝える画期的事業がスタートしたのである。

五部門六人に贈られた 二三金のメダルと賞状

一九〇一年二月一〇日、ノーベル賞授賞式会場の正面奥には、ノーベル賞の生みの親、ダイナマイトの発明で巨大な富を築いた化学者、アルフレッド・ノーベルの胸像が飾られ、それを背にして左右にはノーベル財団関係者が席を占めていた。

この日、スウェーデン国王・オスカー二世(七二)が、多額の賞金を外国人に授与することに不満を抱き、出席を拒否するというハプニングがあった。会場

も空席が目立ち、関係者を動員することで埋められた。ノーベル賞は、波乱のうちにスタートしたのである。

午後四時三〇分、ノーベル財団理事長であるスウェーデン首相のグスタフ・ボストレームのスピーチに続き、受賞者が一人ずつ紹介され、金メダルと賞状が渡された。メダルは直径六・五センチで、二三金のメダルの表側はノーベルの横顔のレリーフ、裏側には、「人生が技芸の発明によって美しくなるのを快く眺めんことを」というノーベルの言葉が彫られており、デザインはスウェーデンの彫刻家、エリック・リンデベリによるものだった。

第一回の受賞者は五部門六人だった。物理学賞は、X線発見で不朽の名をとどめたドイツのウィルヘルム・レントゲン(五六)。化学賞は、化学熱力学の法

則および溶液の浸透圧を発見したオランダのJ・H・ファン・ト・ホフ(四九)。生理学・医学賞は、血清療法、特にジフテリアの研究で功績を残したドイツのE・フォン・ペーリング(四七)が受賞した。

また文学賞には「詩抄」「心の日記」などの作品を著したフランスの詩人、シユリ・ブリュドム(六二)が輝いた。彼は授賞式に欠席したが、当時、世界にその名をはせていたロシアの作家、トルストイ(七三)を無視したことに抗議した、四二人のスウェーデンの作家や俳優の非難を押しつけての受賞だった。

平和賞は二人に贈られた。一人は「赤十字の父」と呼ばれるスイスのアンリ・デュナン(七三)。彼は一八六四年、ジュネーブで「赤十字」を創立した平和運動家。もう一人はフランスのフレデリック・パシー(七九)で、六七年、「国際永久平和同盟」を設立、八一年には国會議員として、イギリスの平和運動家、W・クリーマーと国際議員団平和会議を作ったことが評価されての受賞であった。

授賞式では、スウェーデン・アカデミーの事務局長だった詩人のカール・ダービッド・アフ・ビーガンが「ノーベル財団の宴の日」と題した詩を朗読した。

「スウェーデンの肩に／かくも重く／ふりかかりしこの課題／我求めたことなし／世界がスウェーデンの『厳選作業』を見守る時／責任ははてしなく重し」それは、彼らのノーベル賞に対する意気込みを象徴するものであった。

国別の受賞者数では アメリカが断然トップ

ノーベル賞を制定したスウェーデンのアルフレッド・ノーベルは、一八六六年、爆発しやすく取り扱いが不便だった液状のニトログリセリンを珪藻土にしみこませることで、固形爆薬のダイナマイトを発明した。さらに七五年の混合無煙火薬など次々に発明をし、生涯の特許数は三五五件にもおよんでいた。ノーベル賞は、彼の死後、世界の平和と科学の進歩を念願した遺言に基づき、その遺産を基金として設立されたものだが、ノーベルがその遺言に署名したのは一八九六年二月一〇日、イタリアのサン・レモの別荘で世を去る一年前のことだった。

「私の全遺産は、私の遺言執行者によって安全な有価証券に投資された資本で基金を設立し、その利子を毎年、その前年に人類のために最大の貢献をした人たちに、賞として分配されるものとする」

▲物理学賞を受賞したレントゲンの、陰極線の研究装置。レントゲンは、先駆者たちの実験を繰り返すことで、X線の発見にたどりついた。



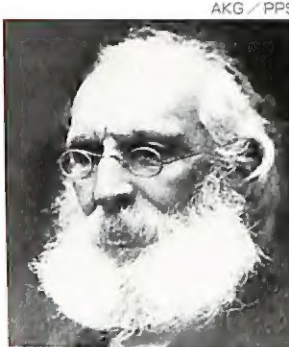
▲フォン・ベーリング(生理学・医学賞、ドイツ、1854.3.15～1917.3.31)。血清療法の研究で受賞。



▲ファン・ト・ホフ(化学賞、オランダ、1852.8.30～1911.3.1)。化学熱力学の法則および溶液の浸透圧の発見で受賞。



▲ウィルヘルム・レントゲン(物理学賞、ドイツ、1845.3.27～1923.2.10)。X線発見の業績により受賞。



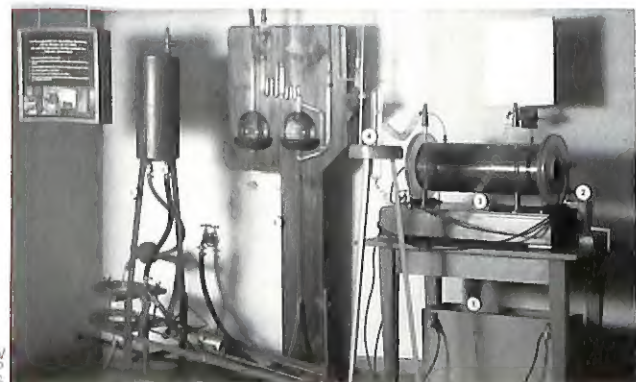
▲フレデリック・パシー(平和賞、フランス、1822.5.20～1912.6.12)。「国際永久平和同盟」設立など平和活動で受賞。



▲アンリ・デュナン(平和賞、スイス、1828.5.8～1910.10.30)。国際赤十字を創始した業績で受賞。



▲シユリ・ブリュドム(文学賞、フランス、1839.3.16～1907.9.6)。叙情的な作風で、孤独な精神の苦悩などを追究した。



滞日八年のベルギー公使夫人が 見た日本人の婚姻観

佐伯修

「午前九時に皇后陛下に拝謁した。陛下はとても優しい態度で、丁寧に私を遇して下さった。拝謁の終ったあと、私のために午餐を賜り、閑院宮内閣下と山階宮内閣下もその席に列せられた。公使夫人が夫の同伴なしに皇居で午餐を頂いたのは今回が初めてなので、私はこの上なく名譽なことだと思った」（長岡祥三訳「ベルギー公使夫人の明治日記」より）

この年四月九日、駐日ベルギー公使夫人、エレオノーラ・メアリー・ダヌタン（二八五八―一九三五）は、一時帰国に先立って皇后に拝謁した。彼女は、前日の八日には外務省で開かれた送別晩餐会に出席、前年の明治三十三年に起こった「義和團事件」（北清事変）の際、北京で籠城した柴五郎陸軍中佐らとも会見している。



▲日本を舞台にした小説なども書く。

「今日、私は日本人の年取った女中と話していたが、それはちょっと面白い話だった。日本では法律上離婚は容易だが、妻が夫を離婚するというのは極めて異例のことである。なぜなら夫のための法律は決して妻のための法律ではないからだ。しかし、年取ったサクの場合は彼女のほうが先手を取ったのであって、しつかり者のサクは煩しくて不貞な亭主を厄介払いするのに成功したのである。（中略）『それでお前は幸せなの？ サク』と私は聞いた。『ええ、今は奥様といればとても幸せです。だけど本当に前はひどいものでした。私の亭主はとても悪い男です。芸者にたくさんのお金を使いました。でも――。』ここでちょっと残念そうな溜息が洩れた。『彼は男前が洩れた。』彼は男前として彼女が一人であつたが、そのとき哀れな妻でられた『古い妻』の淳朴な顔の上を、誇りと満足の入れ混った奇妙な微笑が横切ったので、私はその表情を見て笑わずにはいられた。だが私は彼女がどうやって邪魔者から逃れたのか終始疑問に思っていた」

また、エレオノーラは、公使館の使用人らが、婚礼をあげながら婚姻の届けを出産直前まで平気で延ばすといった、結婚の法手続きに関するルーズさも指摘している。

遺言は、ヨーロッパの八カ国に散在していた不動産の処分が完了した、一八九七年一月に開封された。そして、遺言執行人として信頼の厚かったラグナル・ソールマンとノーベルの甥・エマニエルの努力によって、ノーベル財団が発足。一九〇〇年六月二十九日には、財団の定款と授賞対象者などに関する規定が発表されるにいたつたのである。

競争し、新発見に熱い情熱を注いでいます。賞金の魅力もありますが、それ以上に、神話ではない真の功労者を認知するという高潔さと権威は、いくら賞賛してもすぎることはありません」

こう語るのは、千葉大学の前学長、丸山工作氏である。

ちなみに、ノーベル賞が創始されてからこの九十七年間に六六一人の個人と団体が受賞。国別ではアメリカが断然トップの二二五。以下、イギリス、ドイツ、フランスの順で、日本は一九四九年、物理学賞の湯川秀樹、一九九四年の文学賞に輝いた大江健三郎が八人が受賞している。

なお、メイン授賞式会場は一九三六年にストックホルムのコンサートホールに移り、一九六九年にはノーベル経済学賞が新設された。

アルフレッド・ノーベル（1833―1896）スウェーデンの化学者、産業資本家。一八八六年ダイナマイトを発明、また三五五の特許を得る。彼の遺言と遺産で、ノーベル賞が創設された。



AKG PPS

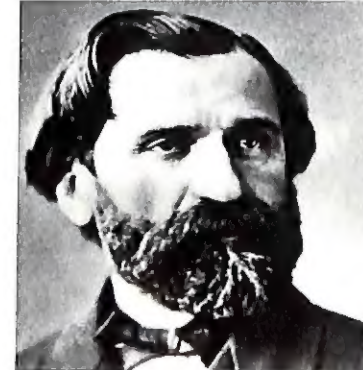
往きて 還らぬ



▲1月3日 三野村利助(57)
実業家。三野村利左衛門の嫡養子で、明治10年三井銀行総代理副長。15年の日銀創立と同時に理事に就任。



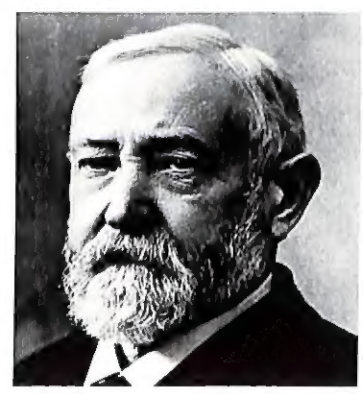
▲1月20日 伊藤圭介(97)
植物学者。長崎でシーボルトに学ぶ。リンネの分類法を紹介。明治14年東大教授、21年日本初の理学博士となる。



▲1月27日 G・ヴェルディ(87)
イタリアを代表する作曲家の一人で、ロマン派オペラの名曲を残す。代表作に「リゴレット」「椿姫」など。



▲2月18日 早矢仕有昶(63)
実業家。明治元年横浜に丸屋書店（現・丸善）創業。外国書籍輸入の端を開く。ハヤシライスの元祖でも知られる。



▲3月13日 B・ハリソン(67)
米の政治家。弁護士を経て政界に入り、1889年第23代大統領に就任。翌年資本家保護のマッキンリー関税法制定。



▲5月24日 渡辺洪基(53)
政治家。明治4年岩倉遣外使節団の一員として欧米視察。12年学習院院長。その後東京府知事、帝大総長を歴任。



▲2月3日 福沢諭吉(66)
明治期の啓蒙思想家。近代化の最大の功労者。慶応四年（一八六八）慶応義塾開設。著書『西洋事情』は人間平等宣言の主張で、ベストセラーに。



▲5月25日 中島俊子(40)
婦人運動家。明治15年自由民権運動に加わり男女同権を説く。18年中島信行と結婚、20年運動から手を引いた。



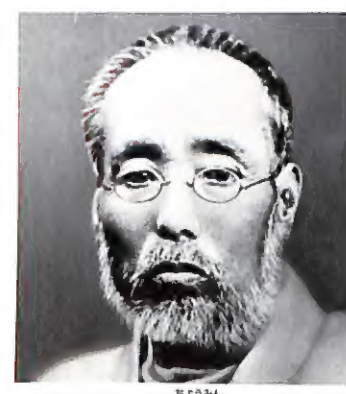
▲6月1日 大橋乙羽(31)
小説家。明治22年『こぼれ松葉』発表。27年博文館主人・大橋佐平の女婿となり同社発展に尽力。欧米漫遊後、病死。



▲10月7日 中上川彦次郎(47)
実業家。福沢諭吉の甥。時事新報社・山陽鉄道社長を経て、明治24年三井銀行理事。藤原あきは三女。



▲11月7日 李鴻章(78)
清の政治家。1870年直隷総督となり北洋陸海軍創設。日清戦争の講和会議では清国代表として、下関条約を結ぶ。



▲12月13日 中江兆民(54)
自由民権思想家。明治7年仏学塾を開く。ルソーなどの西欧近代思想を紹介。名著『三酔人経綸問答』がある。



▲9月9日 H・T・ローレル(36)
仏の画家。パリのキャバレーやカフェに入り込んで、パリ風俗とその憂鬱を正確な視線で描き出した。石版によるポスター「ムーラン・ルージュ」は、よく知られている（写真右端）。

26	17	13.35	9	9	10.30	38	27	6	2
----	----	-------	---	---	-------	----	----	---	---

PILOT



ノック式の激細ボールペン、新登場。



ピシッ書いて、ハッキリ読める。大好評の激細ボールペンに、ノック式が新登場。手帳を片手に、ノックするだけでスラスラ。0.3ミリボールを搭載し、激細文字がスラスラ。新開発の特殊ゲルインキを採用し、筆跡は耐水性に優れ、くっきり鮮明。しかも経済的なレフィル交換式です。

ハイテックCノック

HI-TEC-C Knock

LHK-30C3 300円(税抜) ●筆跡幅:0.20mm ●レフィル交換式 ●インキ色:黒、赤、青 ●軸色:全7色



好評発売中

ハイテックC03 LH-20C3 200円(税抜) ●筆跡幅:0.15mm ●インキ色:全19色
ハイテックC04 LH-20C4 200円(税抜) ●筆跡幅:0.20mm ●インキ色:全19色



製造元:パイロットインキ(株)

